

# 宮園遺跡 IV

—大阪府営堺宮園第3期高層住宅（建て替え）新築工事に伴う発掘調査—

大阪府埋蔵文化財調査報告二〇二二一

令和5年3月

大阪府教育委員会

大阪府教育委員会

# 宮園遺跡 IV

—大阪府営堺宮園第3期高層住宅（建て替え）新築工事に伴う発掘調査—

令和5年3月

大阪府教育委員会



## 序文

本書で報告します宮園遺跡は、堺市中区宮園町に所在する府営堺宮園住宅を囲む範間に広がる古墳時代から中世、近世にかけての遺跡です。

宮園住宅は昭和40年代初頭に建築された団地で、近年の建て替え計画を受け試掘調査を実施したところ、中世を中心とした遺物、遺構が確認されたことから新たな埋蔵文化財包蔵地として周知されました。平成28年度より第1期住宅新築工事に伴う発掘調査が実施され、古墳時代と考えられる自然流路や中世の粘土採取土坑、近世の井戸などの遺構が確認されています。

今回の調査では、既刊の報告書で報告されている中世の粘土採取土坑などは確認できませんでしたが、これまでの調査では少數しか出土していない奈良時代から平安時代にかけての黒色土器などが多数出土しました。

これらの成果は、これまでの宮園遺跡の調査成果に新たな知見を加えるもので、この地域の歴史を解明していくうえで、重要な指標となるものです。

最後になりましたが、調査にあたっては、地元関係者ならびに堺市文化財課、大阪府建築部の方々には多大なご理解とご協力をいただきましたことに深く感謝いたします。

本府教育委員会では文化財の調査や保護、活用などの事業をさらに推進してまいります。今後ともいっそうのご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和5年3月

大阪府教育庁文化財保護課長

稲田 信彦



## 例言

1. 本書は、大阪府教育委員会が大阪府住宅まちづくり部の依頼を受けて令和3年度に実施した、大阪府営堺宮園住宅建て替え工事に伴う、堺市中区宮園町所在の宮園遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は文化財保護課調査事業グループ技師 大澤 嶺を担当者として実施した。
3. 遺物整理は、文化財保護課調査管理グループ専門員 藤田 道子を担当者として実施した。
4. 発掘調査の調査番号は 21030 である。
5. 本書に掲載した遺構写真の撮影は発掘調査担当者が行い、遺物写真の原色図版 4、図版 12～図版 23 は、イトフォトに委託した。
6. 発掘調査にあたっては、空中写真測量、図化作業を株式会社アクセスに委託して実施した。
7. 本書の執筆及び編集は、大澤が行った。
8. 発掘調査の出土遺物や写真・図面等の記録資料は、大阪府教育委員会で保管している。
9. 発掘調査・遺物整理にあたっては、以下の方々よりご指導・ご教示・ご協力いただきました。  
堺市教育委員会、建築部住宅整備課・住宅建築課、八田荘団地自治会（順不同）
10. 発掘調査・遺物整理ならびに本書の作成に要した費用は、大阪府都市整備部が負担した。

## 凡例

1. 本書で用いる座標値は世界測地系（国土地理座標第VI系）に基づき、方位針は座標北を示す。水準値はT.P.値（東京湾平均海面）を用い、本文および挿図中ではT.P.+○mと表記する。
2. 遺構番号は、遺構の種類に関係なく、検出した順に付している。これは発掘調査での記録と合致する。また、掲載遺物に付した番号は通し番号で、挿図と図版の番号は一致している。
3. 土層および遺物の色調については、『新版 標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄 / 2006年度版）に拠る。
4. 遺物実測図の断面は、須恵器・陶器・磁器を黒塗り、瓦器・瓦質土器を網伏せとし、その他を白抜きとした。
5. 引用・参考文献は巻末に一括した。

## 本文目次

序文	
例言	
凡例	
目次	
第1章 調査に至る経緯・経過.....	1
第1節 調査の経緯.....	1
第2節 調査の経過と方法.....	2
第2章 地理的環境・歴史的環境と既往の調査成果.....	5
第1節 地理的環境.....	5
第2節 歴史的環境.....	7
第3章 調査成果.....	12
第1節 基本層序.....	12
第2節 1区の調査成果.....	12
第3節 2区の調査成果.....	17
第4節 3区の調査成果.....	36
第5節 4区の調査成果.....	40
第6節 5区の調査成果.....	42
第7節 6区の調査成果.....	43
第4章 総括.....	46
引用・参考文献.....	47
遺構一覧表.....	48
遺物観察表.....	49
抄録	

## 挿図目次

図 1	調査地位置図.....	1
図 2	調査地座標図.....	3
図 3	調査区地区割図.....	4
図 4	宮園遺跡周辺土地条件図.....	5
図 5	宮園遺跡周辺の地形.....	6
図 6	宮園遺跡周辺の遺跡.....	8
図 7	周辺の主要調査地点.....	9
図 8	基本層序柱状図.....	13
図 9	1区東壁土層断面図.....	14
図 10	1区南壁土層断面図.....	15
図 11	1区第2c層上面全体図.....	16
図 12	1区第2c層上面掘立柱建物平面・断面図.....	17
図 13	1区第4層上面全体図.....	18
図 14	1区第4層上面遺構平面・断面図.....	19
図 15	1区第4層上面溝 187 平面・断面図.....	20
図 16	1区第4層上面溝 175 遺物出土状況図・断面図.....	21
図 17	1区出土遺物実測図.....	21
図 18	2区南壁土層断面図.....	23
図 19	2区全体図.....	25
図 20	2区遺構平面・断面図その1.....	27
図 21	2区遺構平面・断面図その2.....	28
図 22	2区ピット集合 a 平面・断面図.....	29
図 23	2区ピット集合 b 平面・断面図.....	30
図 24	2区ピット集合 c 平面・断面図.....	31
図 25	2区ピット集合 c 平面・断面図その2.....	32
図 26	2区出土遺物実測図その1.....	33
図 27	2区出土遺物実測図その2.....	34
図 28	2区出土遺物実測図その3.....	35
図 29	2区出土遺物実測図その4.....	36
図 30	3区南壁土層断面図.....	37
図 31	4区東壁土層断面図.....	37
図 32	4区全体図.....	38
図 33	4区遺構平面・断面図.....	39
図 34	5区南壁土層断面図.....	40
図 35	5区井戸 003 平面・断面図.....	40
図 36	5区全体図.....	41
図 37	6区東壁土層断面図.....	42
図 38	6区全体図.....	43

図 39	6 区遺構平面・断面図	44
------	-------------	----

## 表目次

表 I	周辺の主要調査地点	9
-----	-----------	---

## 原色図版目次

原色図版 1	1 区・2 区全景
原色図版 2	1 区・2 区土層断面
原色図版 3	3 区から 6 区土層断面
原色図版 4	1 区・2 区出土遺物

## 図版目次

図版 1	1 区全景	図版 13	2 区出土遺物その 2
図版 2	1 区遺構断面その 1	図版 14	2 区出土遺物その 3
図版 3	1 区遺構断面その 2・2 区全景	図版 15	2 区出土遺物その 4
図版 4	2 区ピット集合	図版 16	2 区出土遺物その 5
図版 5	2 区遺構断面その 1	図版 17	2 区出土遺物その 6
図版 6	2 区遺構断面その 2	図版 18	2 区出土遺物その 7
図版 7	2 区遺構断面その 3	図版 19	2 区出土遺物その 8
図版 8	2 区遺構断面その 4	図版 20	2 区出土遺物その 9
図版 9	2 区遺構断面その 5・4 区遺構断面	図版 21	2 区出土遺物その 10
図版 10	4 区・5 区・6 区全景	図版 22	2 区出土遺物その 11
図版 11	5 区・6 区遺構断面	図版 23	2 区出土遺物その 12
図版 12	1 区・2 区出土遺物		



## 第1章 調査に至る経緯・経過

### 第1節 調査の経緯

本調査は、府営堺宮園住宅第3期建て替え工事に伴うものである（図1）。

府営堺宮園住宅（八田荘住宅）は堺市中区宮園町に所在し、52棟の中層住棟が建つ大規模な府営住宅である。建築は昭和41年～43年で、本府に文化財保護課が設置される以前である。専門職員はいたものの、全ての開発に対応できる状況ではなかった。そのため建築時に調査は行われず、府営住宅の敷地は永らく包蔵地外として扱わされてきた。

平成21年宮園住宅の複数年次にわたる建て替え計画が示された。一部住棟の建て替え工事、耐震改修工事、エレベーター設置工事を主たる内容とするものであった。文化財保護課では、近年堺市教育委員会の調査で事業地の近辺に遺跡が発見されるようになったことから、周辺の埋蔵文化財包蔵地の状況も鑑みて、住宅まちづくり部に対して埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施するよう協力を求めた。

協議の結果、平成22年11月から12月にかけて試掘調査を実施した。試掘調査は23箇所に調査区を設定し実施した。その結果、18箇所で遺物と包含層を検出し、そのうち6箇所で溝や土坑などの遺構を確認した。これらの調査成果から、遺構・遺物が当該地の周辺に広がる可能性が高いことが判明し、事業課に対して事前調査が必要な旨を伝えた。平成23年2月に遺跡の発見通知が提出され、新規発見の埋蔵文化財包蔵地「宮園遺跡」が周知された。種類は「集落跡」、時代は「古墳・平安・中世」とされた。

その後住宅まちづくり部は第1期・第2期工事を進め、それに伴い本課でも調査を実施した。これらの調査の成果は『宮園遺跡』、『宮園遺跡II』、『宮園遺跡III』の各報告書で詳細に報告されている。

今回の調査区は第3期建て替え工事の住棟建築部分であり、調査面積は1347m<sup>2</sup>である。令和3年4月住宅まちづくり部長より発掘調査実施の依頼を受け、令和3年10月から令和4年2月まで発掘調査

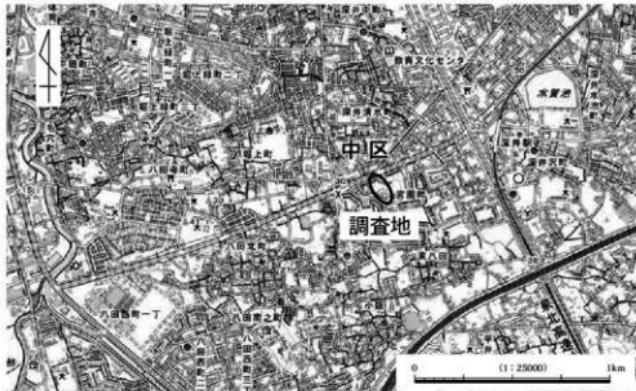


図1 調査位置図

を実施した。

また、これらの調査にかかる遺物整理・報告書作成は令和4年3月から令和5年3月まで行った。

## 第2節 調査の経過と方法

### 調査区分

調査区は住棟と設備棟、雨水貯留槽の建築部分に合計6区設定した。各調査区は座標軸に合わせて地区割を行い、遺物の取り上げもこの地区割に基づいて行った（図3）。

### 発掘作業

調査区を設定し、令和3年10月から調査を開始した。調査はまず重機によって盛土及び現代の耕作土を除去した。それ以下の遺物包含層を、スコップや鋤籠などを使用し人力によって掘削した。掘削した土はベルトコンベアーより調査区外へ搬出した。遺構の検出及び掘削は主に草削り及び移植ゴテを使用した。

過去の調査成果から、黄褐色砂質土層の上面で遺構の検出を行った。また2区については黄褐色砂質土層が認められなかったため、計画を変更し灰白色粘性砂質土層の上面で検出を行った。

黄褐色砂質土層及び灰白色粘性砂質土層上面において遺構を検出した後、空中写真測量を行い50分の1の図面を作成した。それに加え、土の堆積状況を示す土層断面図や各遺構の詳細図面をエスロンテープやメジャーを用いて作成した。その後、下層確認のため黄褐色土層及び灰白色粘性砂質土層の掘削を行い、堆積状況を確認して記録した。重機によって搬出した土の埋戻しを行い、調査は2月下旬で終了した。

### 写真撮影

遺跡全体を撮影するため高所作業車を利用して全景写真を撮影するとともに、個別の遺構に対して半裁を行い堆積状況の確認や構造分析のための断面写真を撮影した。写真撮影はデジタルカメラ（フルサイズセンサー）を主に使用して撮影を行った。

### 整理等作業

報告書の作成は令和4年3月から実施した。現地で記録した図面・写真的整理を行うとともに、遺物の洗浄・復元、実測を行った。遺物の量はコンテナ17箱分であった。

遺物実測図は、スキャナーで原図を取り込んでデジタルトレースを行い、必要に応じてデジタル化した拡大を貼り込み、挿図を作成した。

遺構図面は原図の取り込みを外部に発注し、デジタルトレースを行って挿図を作成した。

現地で撮影した写真に関しては、現像及びデジタルプリントを行いファイルに格納した。また、報告書に掲載する遺物については、委託によって写真撮影を行った。

以上の作業と並行して報告文を作成し、報告書の編集作業を行った。

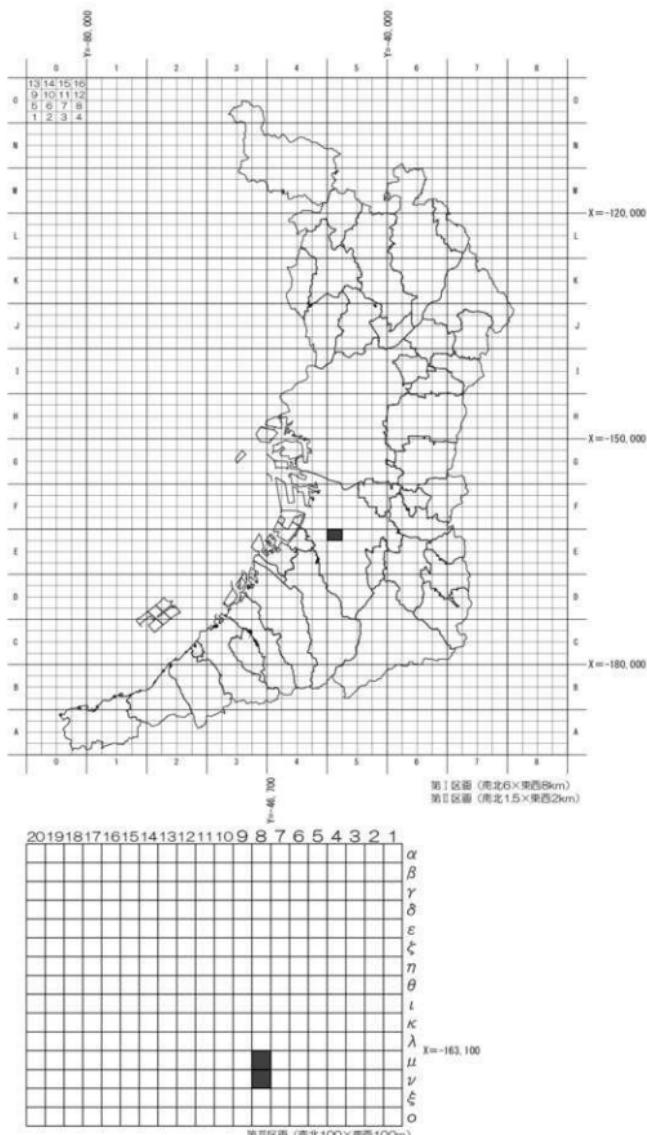


図2 調査地座標図

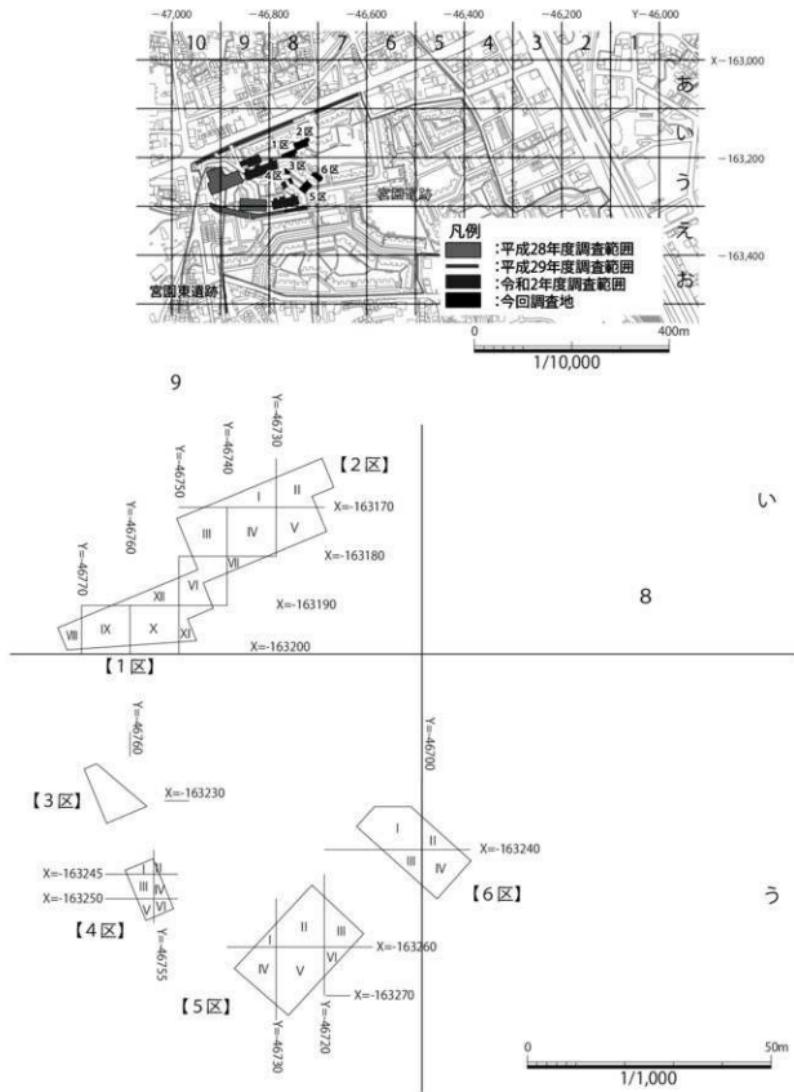


図3 調査区地区割図

## 第2章 地理的・歴史的環境と既往の調査成果

### 第1節 地理的環境

大阪府の景観は中央部の大坂平野、その平野を南北から挟むように高度を逓減させる丘陵と台地、府域の東と南を画する生駒・金剛・和泉山地に分けられる。その地形の変遷は、地殻変動と海水面の変動で織り起された結果として説明され、とくに縄文海進が大阪の人類史に大きな影響を与えたことはよく知られている。

宮園遺跡がある堺市は大阪の南部、旧和泉国にあたり、現在も泉州と呼ばれる地域の北部に位置する。大阪南部は和泉山地と金剛山地を背に、大阪層群よりなる羽曳野丘陵、泉北丘陵、信太山丘陵などの丘陵が高度を減じつつ北西及び北に伸び、その前面は広く段丘地形を呈する。この段丘は羽曳野丘陵付近の河内台地と、泉北丘陵・信太山丘陵の泉北台地に大きく分かれ、ともに緩傾斜地が折りがり古くから耕作地や居住空間として利用されてきた。また、河内台地は応神天皇陵古墳（誉田御廟山古墳）を中心とする古市古墳群の、泉北台地は仁徳天皇陵古墳（大仙陵古墳）を中心とする百舌鳥古墳群の舞台でもある。本遺跡は泉北台地の中ほどに位置し、遺跡北西端付近の現在の標高はおよそ TP+28 mだが、調査区内の盛土を除却した旧耕作面（昭和30年代）の高さは南東（平成28年度第3調査区）が約 TP+27.5 m、北西（平成30年度第1調査区）が TP+26.3 mで、北西に下がる本来の地形に適った緩傾斜を呈している。

土地条件図を見ると、遺跡の西側には石津川が北西に向かって流れ、その周囲には谷底平野が広がる。宮園遺跡の範囲は団地の建設時に大きく改変を受けているものの、周辺の様相から更新世（中位）段丘面にあたる（図3）。この段丘面（台地上）には北西～北北西に向かう大小の開析谷が無数に存在していた。

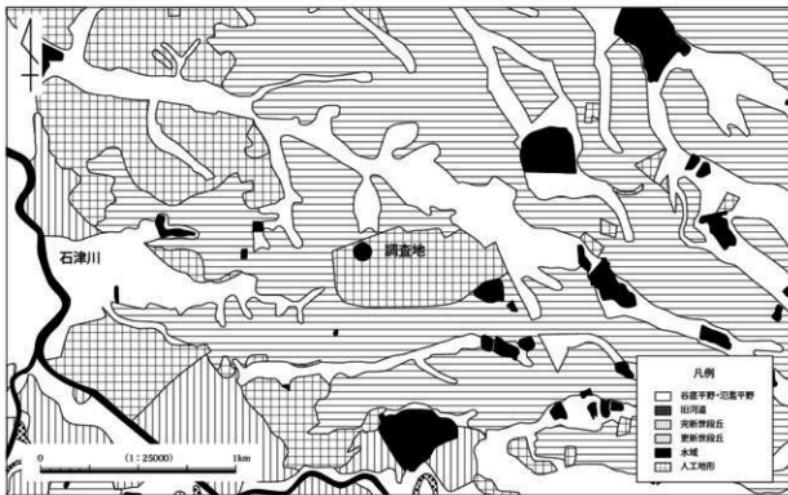


図4 宮園遺跡周辺土地条件図（国土地理院地図に加筆）

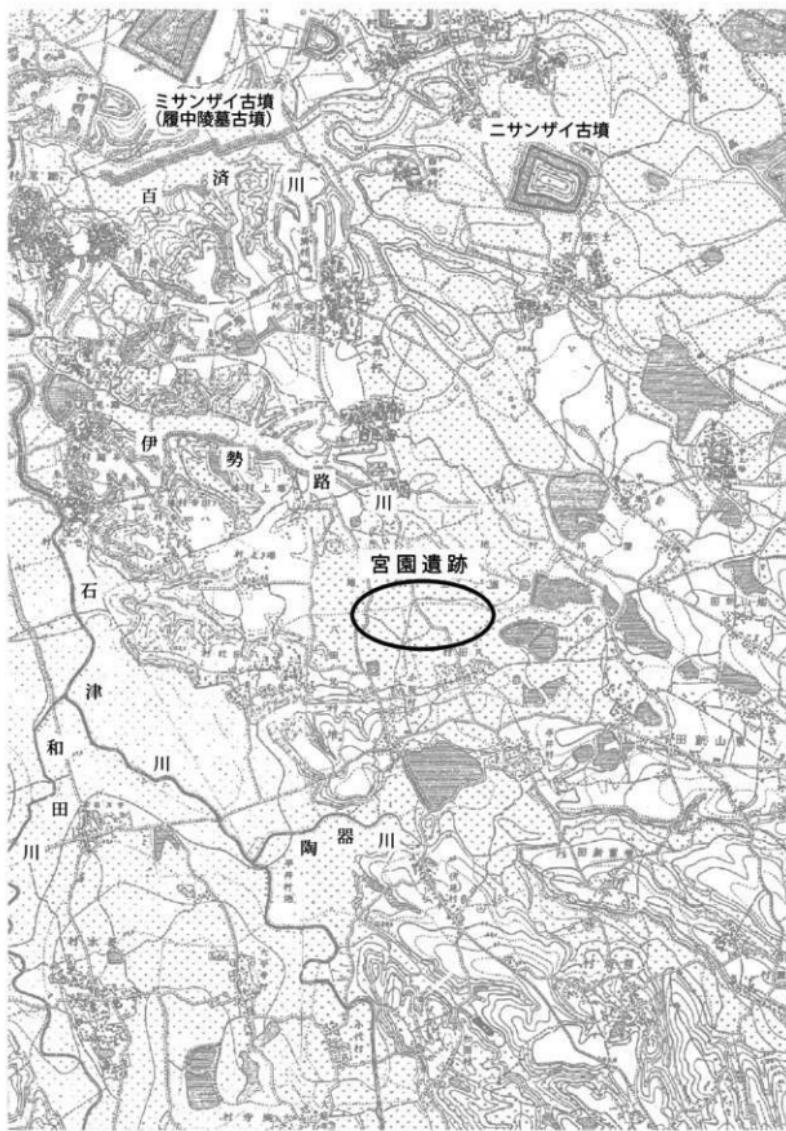


図5 宮園遺跡周辺の地形 (明治18年 陸地測量部地図 1/20,000)

図5に示した明治18年陸地測量部地図からも、近現代の開発による地形変更以前の様相を知ることはできる。多数存在する開拓谷の中でも、大きな谷筋には近世の池溝開発で溜池が築かれ、その下流域は平坦化された耕作地となっている。しかし、概ね北西に延びる旧河道の痕跡をたどることはできる。地図で見ると、宮園遺跡は南の八田村と北の堀上村の間に位置する部分であるが、本書や過去の調査成果（大阪府教育委員会2018・2020）に記すように下層からは蛇行する自然流路を検出している。おそらく、緩傾斜となった谷筋を蛇行して流れる河川が多く存在していたことが考えられる。出土した遺物で判断すると古代は未だ河道の痕跡が残って谷底平野の相を呈し、中世以降に耕作地化が始まったらしい。

さらに、本遺跡付近には石津川に向かう西向きの小支谷も見られる。石津川は堺市南部の丘陵に源を発し、北西流して大阪湾に注いでいる。中流域で和田川が左岸に流入し、右岸には陶器川、伊勢路川、百済川など小河川が台地を刻んで石津川に注いでいる。石津川水系は水運にも利用され、「陶邑」で製作された須恵器運搬の要ともなった河川である。

このように、本遺跡周辺は比較的低平な土地であり、人の生業及び居住に適した場所と言える。ただし水利は十分とは言えず、中世には深い井戸を掘りあげている。多くの谷筋が残るもの、流れの争奪があったようである。17世紀代に溜池が造られているが供給先として十分な河川は丘陵上方に存在せず、明治時代にはさらに南東から水を引いている。平坦な地形であり、海陸風にも恵まれた穏やかな気候でありながら、後世に続く集落が発達しなかったのは不十分な水利環境が影響したのかも知れない。

## 第2節 歴史的環境

宮園遺跡（1）は堺市中区宮園町に所在する府営宮園住宅（旧八田荘圃地）の建替え工事に伴い、平成22（2010）年に実施された試掘調査によって新規に発見された遺跡である。堺市を代表する遺跡群として、北部では令和元（2019）年に世界文化遺産に登録された仁徳天皇古墳（大仙陵古墳）などの巨大前方後円墳等で構成される百舌鳥古墳群、南部では古墳時代から平安時代までの数百年にわたって須恵器を生産した陶邑窯跡群が広がる。百舌鳥古墳群、そして陶邑窯跡群はともに、日本の歴史の動向に重要な位置を占める遺跡である。

宮園遺跡はこのうちの陶邑窯跡群の範囲の北限に相当する位置にある。本遺跡周辺は古くからの豊かな歴史環境を有する地域であり、遺跡も多く存在している。本遺跡の周辺地域の歴史的環境について、時代順に簡単に概説したい（図6・7、表1）。

### 旧石器～縄文時代

旧石器時代では鈴の宮遺跡（26）と平井遺跡（19）、堀上町遺跡（3）、小阪遺跡（22）で剝片や石核、ナイフ形石器の出土が報告されている程度で、確実な遺構は検出されていない。

縄文時代では鈴の宮遺跡（26）で晩期の遺構・遺物の存在が報告されている。また小阪遺跡（22）では前期から晩期までの縄文土器が出土し、中期末以降から遺構が現われる。堀上町遺跡（3）では石器が出土している。

総じて、宮園遺跡周辺は旧石器時代の遺構・遺物が希薄で、縄文時代から人間活動の痕跡がみえ始めたといえるであろう。

### 弥生時代

鈴の宮遺跡（26）では12基の方形周溝墓が発見され、同時に中期～後期の壺や甕などの弥生土器が出土した。また当遺跡の北に隣接する毛穴遺跡（31）は、この墓に葬られた人びとの集落ではないか

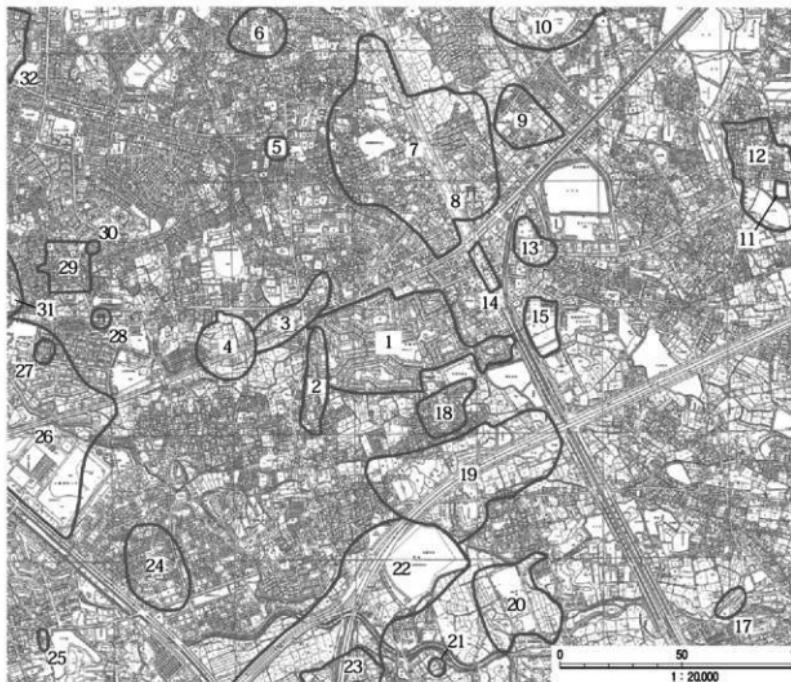


図6 宮園遺跡周辺の遺跡

1. 宮園遺跡 2. 宮園町東遺跡 3. 堀上町遺跡 4. 八田北町遺跡 5. 硬音山古墳 6. 深井中町遺跡  
 7. 深井清水町A遺跡 8. 野々宮神社 9. 深井水池遺跡 10. 土師南遺跡 11. 土塔 12. 大野寺跡  
 13. 深井清水町B遺跡 14. 深井清水町C遺跡 15. 深井幡池遺跡 16. 陶器千塚 17. 東山遺跡 18. 東八田遺跡  
 19. 平井遺跡 20. 平井南遺跡 21. 関宿幡陣屋跡 22. 小坂遺跡 23. 伏尾遺跡 24. 八田西町遺跡 25. 万田遺跡  
 26. 鈴の宮遺跡 27. 仏光寺跡 28. 蜂田神社遺跡 29. 華林寺跡 30. 坊主山古墳 31. 毛穴遺跡 32. 家原寺町遺跡

と推測されている。

宮園遺跡周辺では今のところ目立つ弥生時代の遺跡はこれぐらいであるが、弥生時代に至り人間活動が活発化し始めたものと考えられる。

#### 古墳時代

鈴の宮遺跡（26）からは方墳や埴輪棺、土器棺が発見されており、時期は前期末～中期前半とされている。これは北に数km離れて所在する百舌鳥古墳群との関係を考えることができる墓群といえるであろう。

宮園遺跡は上述したように陶邑窯跡群の範囲の北限に相当する位置にあるので、周辺からは須恵器窯に関係する遺跡が発見されている。深井幡池遺跡（15）では5世紀末（TK23・TK47型式頃）の窯本体が発掘調査され、小坂遺跡（22）では同じく5世紀の灰原が発見され、近くに窯本体が存在することが確実である。

表1 周辺の主要調査地点

遺跡名	番号	調査番号	調査期間	面積 (m <sup>2</sup> )	調査機関	報告書
宮園遺跡	1-1	10087	H22.11.29-12.20	140	大阪府教育委員会	大阪府教委 2011
	1-2	16015	H28.6.7-H29.3.14	4.614	大阪府教育委員会	大阪府教委 2018
	1-3	17010	H29.8-H212	534	大阪府教育委員会	大阪府教委 2020
	1-4	20003・ 20016	R2.5.8-R3.2.26	3.337	大阪府教育委員会	大阪府教委 2022
宮園町東遺跡	2-1	HAC2	S60.12.9-12.24	約 320	堺市教育委員会	堺市教委 1987
堀上町遺跡	2-2	MZCH-1	38923	-	堺市教育委員会	堺市教委 2008
八田北町遺跡	3-2	HAC-3	H7.3.6-3.24	140	堺市教育委員会	堺市教委 1997
	4-1	HDK1	S61.1.13-2.1	約 386	堺市教育委員会	堺市教委 1989a
	4-2	HDK2	S61.5.19-7.4	約 450	堺市教育委員会	堺市教委 1989a
深井清水町遺跡	4-3	HDK3	S61.7.14-12.29	約 4.608	堺市教育委員会	堺市教委 1989b
	13-1	第1地区	S54.8.6-9.7	約 750	堺市教育委員会	堺市教委 1981
	13-2	第2地区	S54.12.10-S55.2.3	660	堺市教育委員会	堺市教委 1981
B地点	13-3	第3地区	S56.9.1-9.30	約 145	堺市教育委員会	堺市教委 1981
深井清水町	14-1	4010	H16.5.10-6.7	336	大阪府教育委員会	大阪府教委 2005
深井幡池遺跡	15-1	FHI1	H1.7.17-H2.3.30	2,621	堺市教育委員会	堺市教委 1992
平井遺跡	19-1	-	S61.8-S62.12	27.850	堺市教育委員会	堺市教委 1988

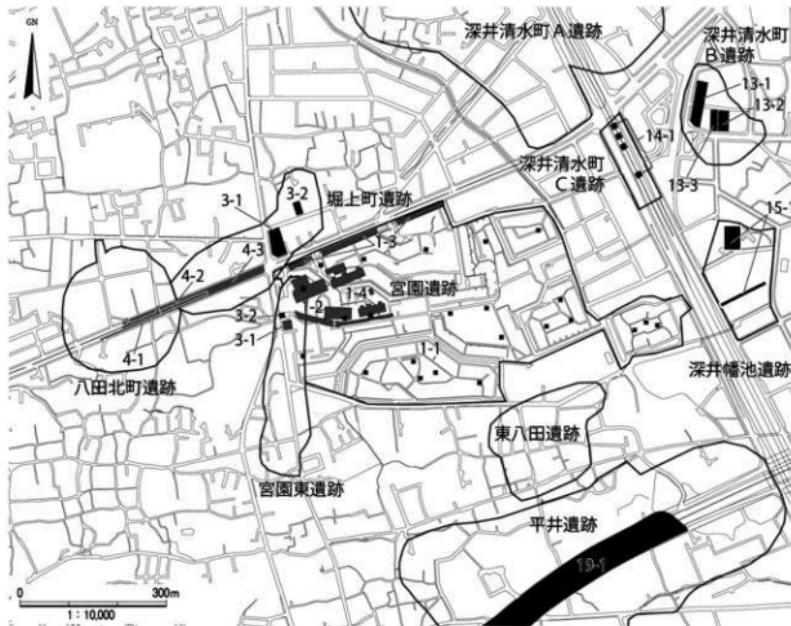


図7 周辺の主要調査地点（調査箇所の番号は表1と対応）

この時代の集落としては、小阪遺跡（22）で竪穴住居や掘立柱建物、井戸等の集落が営まれた痕跡が検出されている。また深井清水町C遺跡（14）では古墳時代末～飛鳥時代の柱穴や溝が検出され、集落の一角の様相が明らかになった。この遺跡では秤の錘である「権」を模した土製品が出土し注目された。

#### 古代

宮園遺跡周辺は古代律令制下では和泉国大島郡常陵郷・蜂田郷に属する。ただ、先述した小阪遺跡において飛鳥時代まで継続する集落の痕跡が検出されてはいるが、これを除けば7世紀の段階では宮園遺跡における遺構・遺物は希薄である。この状況が一変するのは8世紀である。

当地一帯は行基が活躍した場所として知られるが、これと符合するように、宮園遺跡から東へ1.5km離れた位置に、行基が建立したとされる土塔（11）や大野寺（12）が所在する。このうち土塔（11）は国指定史跡として整備され、公開されている。また華林寺跡（29）は行基建立の伝承を持つ寺院として後世に信仰を集めた。

深井幡池遺跡（15）では、奈良時代の土師器窯とそれに関係する土師器溜まりが発見されている。深井清水町B遺跡（13）では、奈良時代の掘立柱建物や溝、土師器溜まり等の遺構が検出され、当時の集落の一部が明らかとなった。これらの遺跡の年代は8世紀前半で、行基の活躍した時期と重なることが注目される。

鈴の宮遺跡（26）では奈良時代の井戸や溝、火葬墓が検出されている。またこの遺跡からは平安時代後期の寺院跡が発見され、所在の小字名から仏光寺跡（27）と考えられている。

蜂田神社（28）は延喜式神名帳に記載される式内社であるが、室町時代末期に現在地に移転したと伝えられる。

#### 中世

中世になると、常陵郷には春日社領深井郷、蜂田郷には石清水八幡宮領蜂田庄あるいは撰閑家大番領八田庄といった荘園が成立し、開発が盛んとなっていく。

平井遺跡（19）では瓦器窯跡とともに掘立柱建物跡がまとまって検出されている。ここが中世の開発拠点となる集落の可能性がある。

八田北町遺跡（4）では土器焼成用の粘土採取土坑が検出されている。若干距離が離れているが、平井遺跡（19）の瓦器窯跡との関係が考えられる。

宮園遺跡周辺では中世の瓦器・瓦質土器・土師器・須恵器等が出土し、土坑や溝、柱穴等の遺構が検出されるが、遺物は包含層から細片で出土することが多く、また粘土採取土坑以外の遺構がまとまった形で検出される例は少ない。この地域で中世に田畠の開発が進んでいった様相を見て取れる。また中世の段階で形成された、田園の中に集落が点在する景観は、図4から看取されるように近代を経て、当地に府営住宅が建設される1950年代まで維持された可能性が高い。

野々宮神社（8）は室町時代にこの地に遷座したと伝えられる神社であるが、詳細は不明である。

#### 近世・近代

近世・近代になって、溜池や水路の築造改修等によって更に開発が進む。これにより1950年代まで続く田園風景が形成されたものと思われる。

他に注目すべきこととして、この地域では戦国時代に八田焼（別名は半田焼）という焼き物が生産されていた。これは当時盛んになった茶の湯に使う茶器の灰炮烙で、陶工の玄斎は豊臣秀吉から「天下一」の称号を許されるほどであった。なお、「湊焼」と通称される焼き物のうち甕などの大型品については、当地周辺で焼かれた八田焼がその実態であるとする説がある（白神1992）。八田焼について、今後

の大きな課題としてここに記すものである。

なお遺跡の名称となっている「宮園」の地名の由来であるが、周辺には上述のように蜂田神社と野々宮神社が所在し、この由緒ある両神社に挟まれた田園というところから戦後に名付けられたものである。

## 第3章 調査成果

### 第1節 基本層序

基本層序は上から順に、宅地造成土（第0層）、近代耕作土（第1層）、中世耕作土（第2層）、地山（第4層）となる（図8）。中世耕作土は6区以外の調査区で確認した。以下各層ごとに記述する。

第0層：八田荘住宅（現宮園住宅）建設に伴う造成盛土である。

第1層：八田荘住宅建設直前までの耕作土である。造成時に削平されている部分が多いが、現状では10～20cm程度の厚さがある。水田作土と床土の2層に分層できる。

第2層：中世耕作土である。3～5区は1層のみで構成されるが、1区は2層に分けられ、10YR6/6明黄褐色砂質土と2.5Y7/2灰黄色砂質土の混合土層である第2b層と、10YR8/1灰白色砂質土と2.5Y7/4浅黄色砂質土の混合土層である第2c層で構成されている。2区は3層に分けられ、瓦器や土師器の混じる2.5Y5/4黄褐色シルトと2.5Y6/2灰黄色砂質土の混合土層である第2a層と、第2b層、瓦器や土師器が大量に混じる5Y5/1灰色砂質土及び2.5Y6/2灰黄色砂質土と2.5Y5/4黄褐色シルトの混合土層である第2c層で構成されている。各層の時期は出土遺物から、第2a層が15世紀、第2b層が15世紀以前、第2c層が12世紀と考えられる。

第3層：2区でのみ確認された堆積層であり、10YR4/3にぶい黄褐色砂質土と2.5Y6/2灰黄色砂質土の混合土で構成される。遺物は須恵器や土師器、石器が出土しており、須恵器は8世紀以降の特徴を示している。この面で遺構は検出されなかった。

第4層：基盤層となる段丘構成層であり、地山と判断する。1・3～6区では、上層は極細粒砂質土もしくは粘性シルト層、下層は風化礫を多く含む砂礫層で構成される。2区では風化礫を多く含む砂礫層は確認していない。第4層は5区と6区の標高がT.P.+27.56mで一番高く、次いで3区T.P.+27.30m、4区T.P.+27.28m、1区T.P.+27.00m、2区T.P.+26.60mの順に低くなる。このことから今回の調査地は北から南及び西から東に向かって地山の標高が高くなることが分かる。

### 第2節 1区の調査成果

#### 第1項 層序

1区の層序は上から順に宅地造成土（第0層）、現代耕作土（第1層）、中世耕作土2層（第2b層、第2c層）、地山（第4層）である（図9）。中世耕作土層はいずれも水田耕作を行っていたと考えられる。第2b層（土層番号27）は10から20cm、第2c層（土層番号28・33）は8cm程度を測る。第2c層は包含する遺物から12世紀に属する。地山は上層の黄色系の細粒砂質土層と下層の風化礫を多く含む灰白色と黄橙色の粘性シルト層に分けられる。地山の標高は概ねT.P.+27.0mで平坦であるが、1区東端の標高は南側で26.9m、北側で26.6mで高低差がある。この差は第2b層でも認められ、段差状になっている。

#### 第2項 検出した遺構

遺構は第2c層上面と第4層上面で検出した。第2c層上面で検出した遺構の種別はピット及び土坑である（図11）。ピット154・156・159・157は1間×1間の建物になる可能性がある（図12）。ピットの平面形は短径24～36cm、長径35～57cmの楕円形である。深さは3～9cmである。

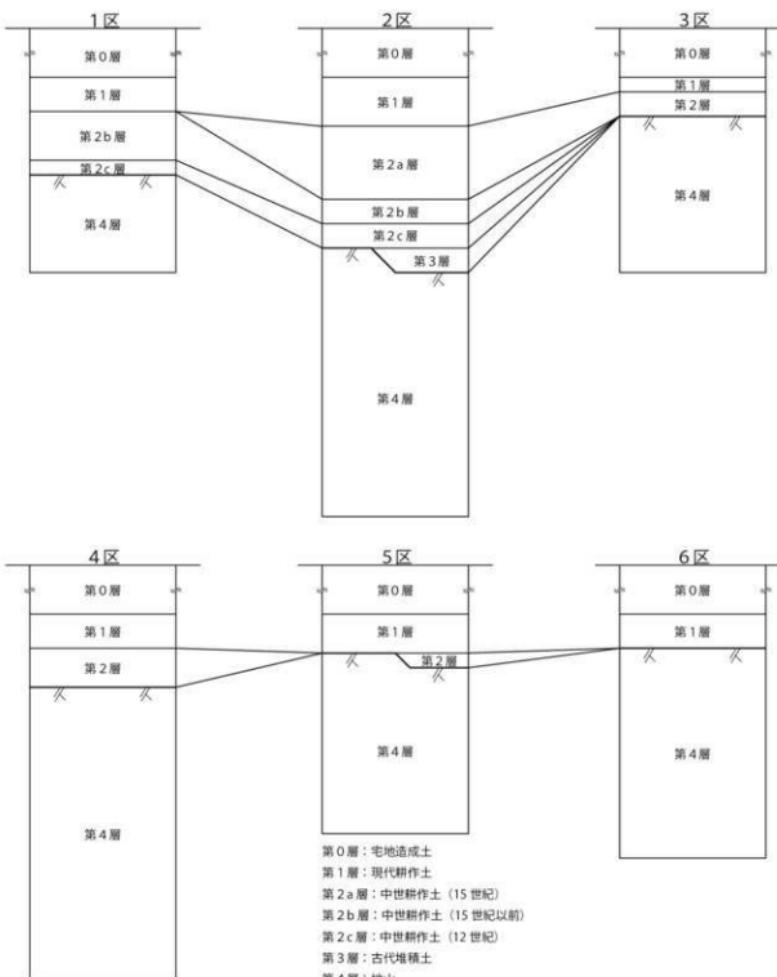
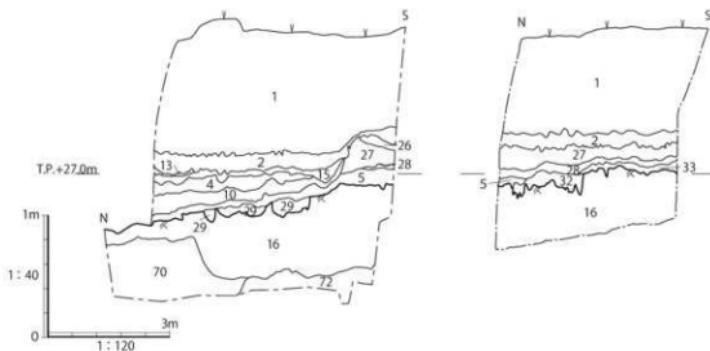


図8 基本層序柱状図

第4層上面で検出した遺構の種別はピット、土坑及び溝である。建物の検出を試みたが、明確に建物の形で並ぶ遺構は認められなかった。溝172～175は鋤溝である可能性が高い。ピット163、170、171、190、土坑216からは瓦器や土師器が出土しており、中世に属する。調査区中央で検出した溝187は、他の遺構と異なり白色の砂質土である。この砂質土の中から縄文時代の石鏃が出土したこと



1. 盛土  
 2. 現代耕作土  
 4. 2.5YS/4 黄褐色 シルトと 2.5Y6/2 灰黄色 砂質土 極細粒砂の混合土 (7 : 3) (瓦器・土器少混じる)  
 5. 5YS/1 灰色 砂質土 細粒砂～極細粒砂と 2.5YS/4 黄褐色 シルトの混合土 (7 : 3) (瓦器・土器少混じる)  
 10. 2.5Y7/1 灰白色 砂質土 極細粒砂と 10YR6/6 明黄褐色 シルトの混合土 (7 : 3)  
 13. 現代耕作土  
 15. SY6/2 黄オリーブ色 砂質土 極細粒砂と 2.5Y6/6 明黄褐色 砂質土 極細粒砂の混合土 (9 : 1)  
 16. 2.5YS/6 黄褐色 砂質土 細粒砂～極細粒砂と 2.5Y7/2 灰黄色 砂質土 極細粒砂の混合土 (9 : 1)  
 26. 10YR8/2 灰白色 砂質土 細粒砂  
 27. 10YR6/6 明黄褐色 砂質土 細粒砂～極細粒砂と 2.5Y7/2 灰黄色 砂質土 極細粒砂の混合土 (6 : 4)  
 28. 10YR6/6 明黄褐色 砂質土 細粒砂～極細粒砂  
 と 10YR7/2 にぶい黄橙色 砂質土 細粒砂～極細粒砂の混合土 (7 : 3)  
 29. 2.5Y7/1 灰白色 砂質土 極細粒砂と 2.5Y6/6 明黄褐色 シルトの混合土 (9 : 1) (0.2～2cm 大の礫混じる)  
 32. 7.5YR6/1 褐灰色 砂質土 極細粒砂  
 と 7.5YR6/8 橙色 シルトの混合土 (8 : 2) (0.2～2cm 大の礫混じる)  
 33. 10YR8/1 灰白色 砂質土 極細粒砂と 2.5Y7/4 浅黄色 砂質土 極細粒砂の混合土 (6 : 4)  
 70. 10YR7/8 黄褐色 粘性砂質土 細粒砂と 7.5Y8/1 灰白色 粘性砂質土 細粒砂～シルトの混合土 (7 : 3)  
 72. 5Y8/1 灰白色 粘性砂質土 極細粒砂～シルトと 10YR7/8 黄褐色 粘性砂質土 極細粒砂～シルトの混合土 (8 : 2)  
 (風化礫多く混じる)

図9 1区東壁土層断面図

から、溝 187 は縄文時代に属する遺構と判断する。

### 第3項 出土遺物 (図17)

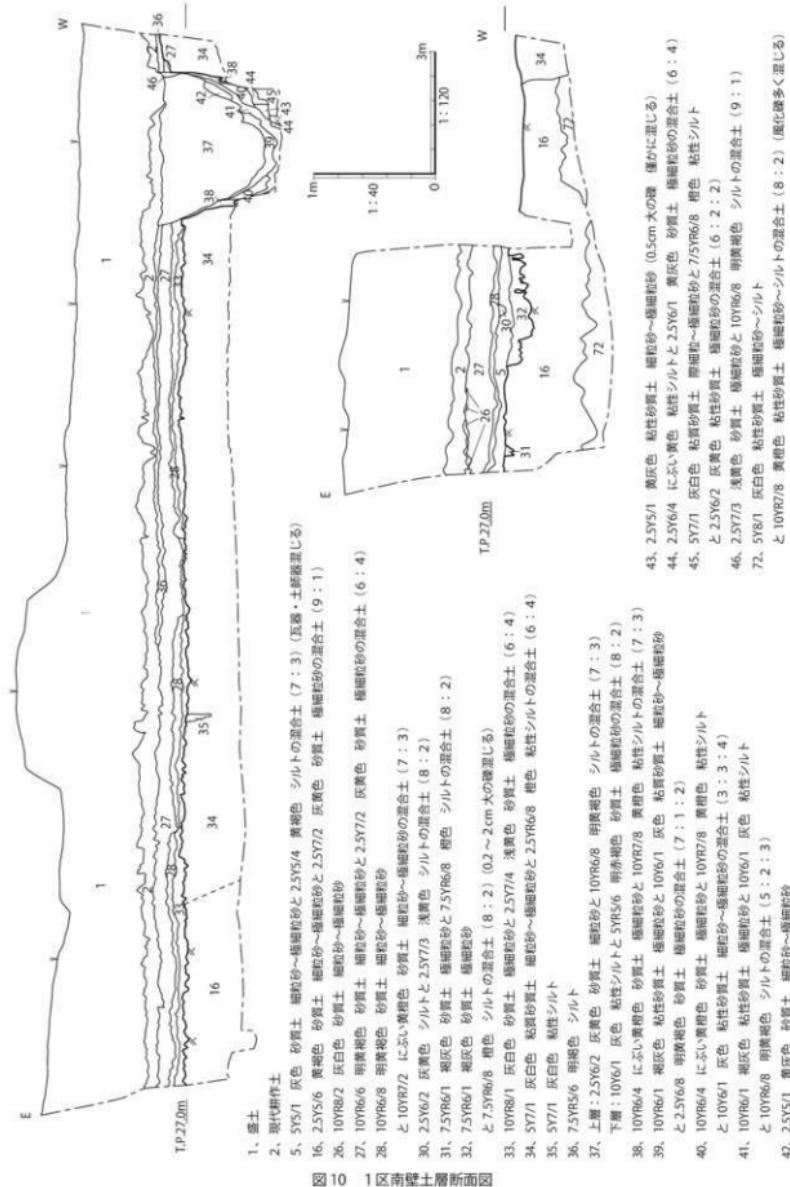
#### 溝 187

2 は凹基式の無茎石器である。片方の闊が欠損する。全体的に押圧剥離による調整が施されている。形態から縄文時代に属すると判断する。

#### 溝 175

1 は須恵器である。底部から胴部にかけて残存している。器種は壺か鉢と考えられる。内面底部に自然釉が付着している。器形から奈良時代に属すると考えられる。

#### 第2c層



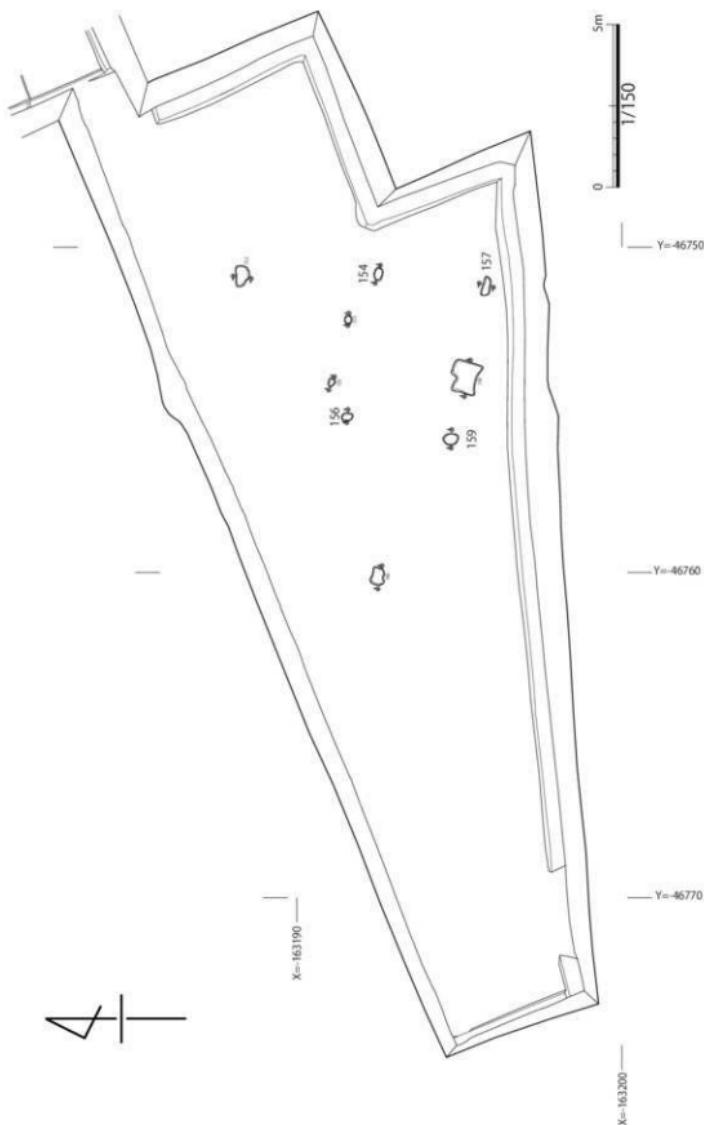


図11 1区第2c層上面全体図

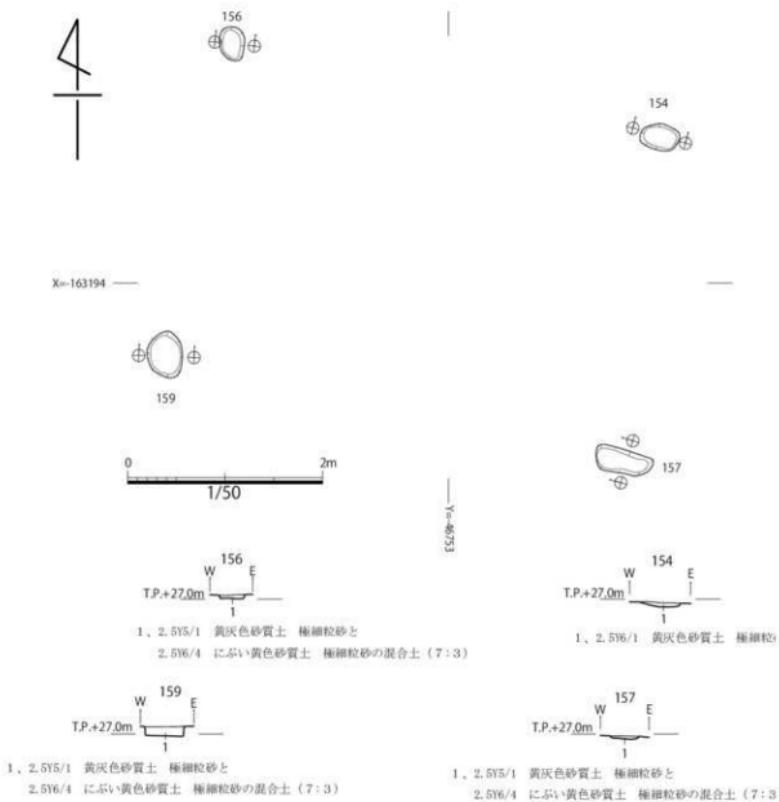


図12 1区第2c層上面遺構平面・断面図

5は土馬である。胸部のみが残存している。胸部は中実であり、左右両足の間には凹みがある。上部に鬚の表現がある。3は土師器の皿である。4は瓦質土器の皿である。3と比較するとやや大きい。3・4とも14～15世紀に属するものと考えられる。

### 第3節 2区の調査成果

#### 第1項 層序

2区の層序は上から順に宅地造成土（第0層）、現代耕作土（第1層）、中世耕作土3層（第2a層、第2b層、第2c層）、古代堆積層（第3層）、地山（第4層）である。中世耕作土層は3層に分けられ、第2a層は畑作、第2b・c層は水田耕作を行っていたと考えられる。第2c層上面では鋤溝を検出した。

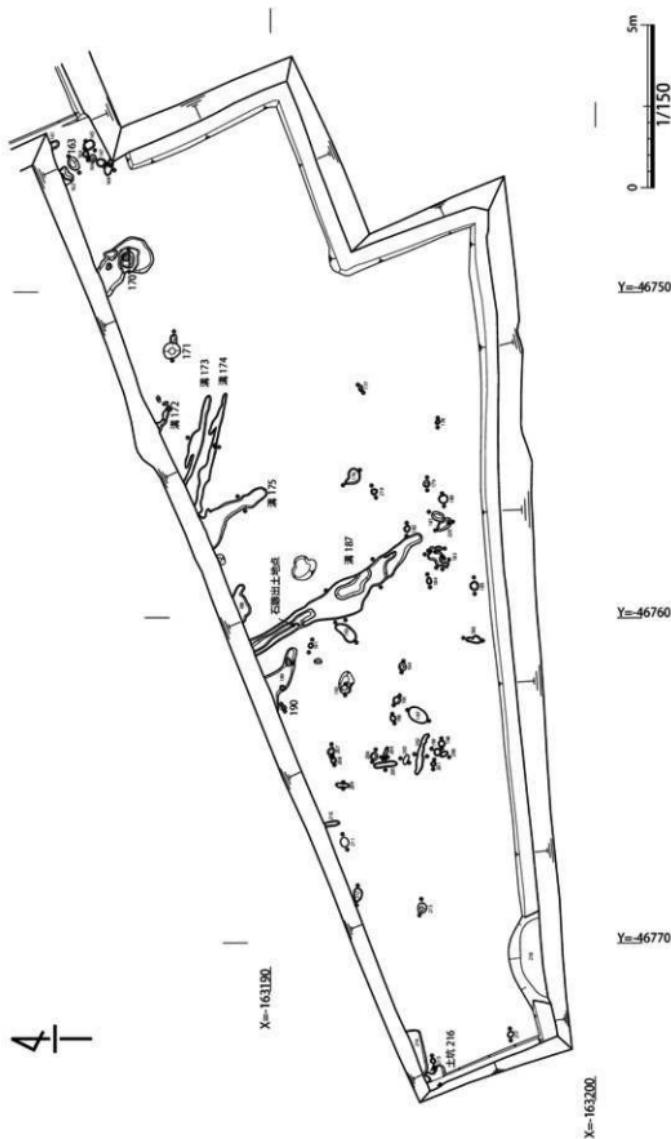


図 13 1区第4層上面全体図

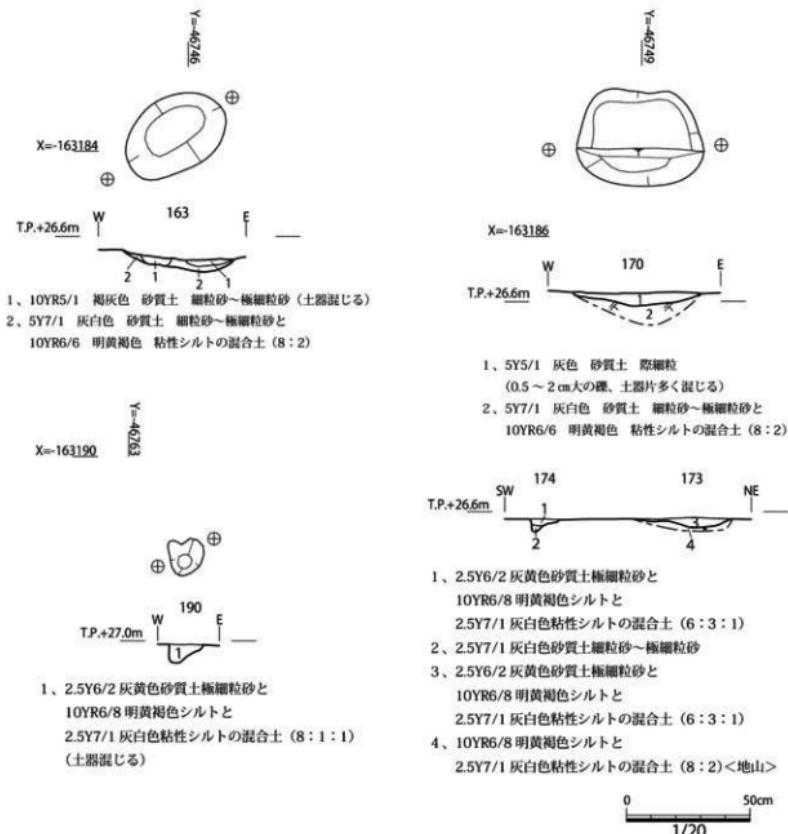


図 14 1区第4層上面遺構平面・断面図

各層の時期は包含する遺物から第2a層は15世紀、第2c層は12世紀に属する。第3層からは須恵器や土師器、石器が出土しており、須恵器は8世紀以降の特徴を示している。この面で遺構は検出されなかった。土層の観察から自然堆積層と考えられる。地山層（第4層）は上層の灰白色の粘性細粒砂質土層と下層の灰白色と黄色系の粘性シルトを基本とする層に分けられる。1区と異なり風化礫が多く含む層は確認していない。地山の標高はT.P.+26.60mで、今回の調査区の中では最も標高が低い。この地山層上面で遺構を検出した。

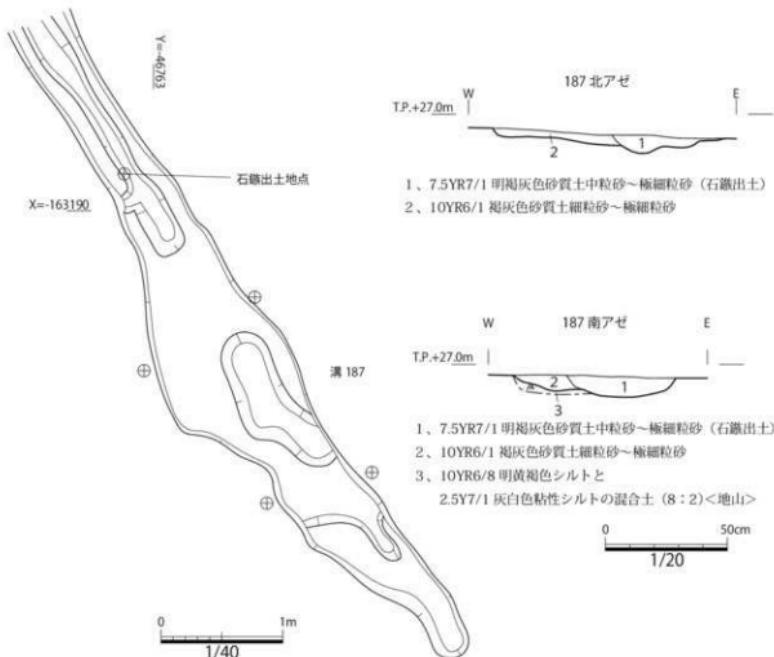


図15 1区第4層上面溝187平面・断面図

## 第2項 検出した遺構

遺構は第4層（南壁土層断面図土色11及び土色14・16層）上面で検出した。検出した遺構の種別はピット、土坑、溝である。明確に建物の形で並ぶ遺構は認められなかった。溝027は搅乱で一部が削平されている。埋土から瓦器椀と土師器が出土した。ピット029は縦30cm横25cmの楕円形である。深さは5cmを測る。埋土から瓦器が出土した。ピット030は直徑21cmの円形である。埋土から黒色土器の椀が出土した。溝024は2区西端を概ね南北方向にはしる溝である。断面の観察から水が流れていた可能性がある。溝022、溝045、溝069は鋤溝と考えられる。045・069からは瓦器と土師器が出土している。溝018からは瓦器椀・土師器が出土した。出土遺物からピット030は古代、それ以外は中世に属すると判断する。そのほか、第4層上面では概ね3箇所でピットの集合を検出している。ピット集合aはピット061～067で構成されている。埋土はほぼ同じ土色であるが、大別して2種類を確認した。062からは瓦器椀が出土している。ピット集合bはピット052～056で構成される。埋土は同じ土色である。055から土師器が出土している。ピット集合dは121～125、151で構成される。埋土はほぼ同じ土色であるが、大別して2種類を確認した。ピット集合a及びbは柵列となる可能性がある。時期は遺物の出土が少ないものの、中世に属すると考えられる。

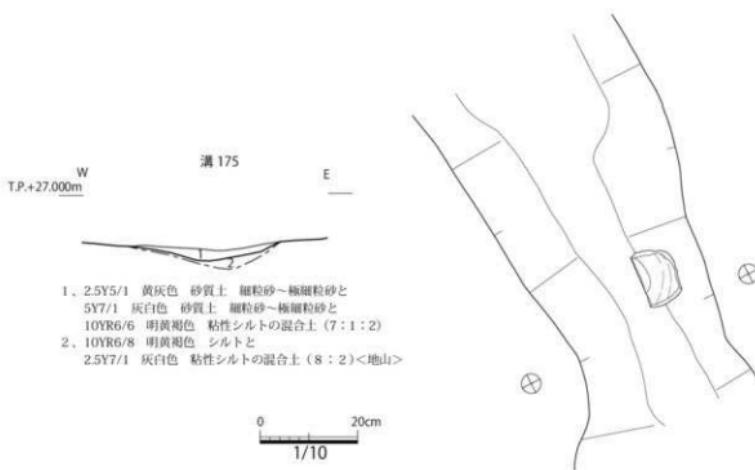


図16 1区第4層上面溝175遺物出土状況・断面図

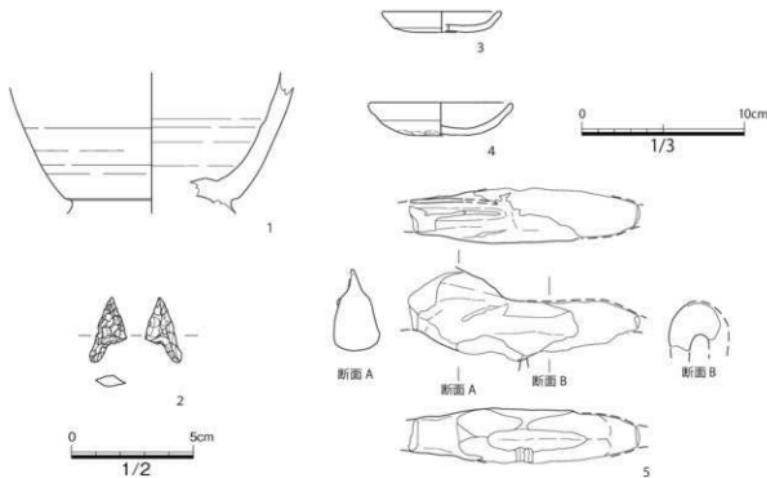


図17 1区出土遺物実測図

### 第3項 出土遺物

#### 鋤溝 018

6は黒色土器B類である。口縁端部はやや内傾する。外面調整はナデ、内面調整はケズリを施す。7は瓦質土器の鉢である。口縁部は直立気味である。口縁部高は1.3cmである。外面調整はヨコナデ、内面調整は工具ナデを施す。

#### 鋤溝 069

8は須恵器の环身である。外面調整、内面調整ともミガキを施す。

#### 第3層

9は平基式の無茎石鐵である。片方の闊が欠損する。表面は細かく押圧剥離をしているが、裏面は平らな部分が存在する。10は凸基式の有茎石鐵である。片側の闊が欠損する。押圧剥離を両面にしている。弥生時代に属すると判断する。11は土師器のつまみ部である。12は上師器の甕である。胴部は長胴氣味で、口縁部は外反する。外面調整は口縁部がヨコナデ、胴部はタテハケ、内面調整は胴部がケズリを施す。14は須恵器の底部である。高台の断面形は方形である。高台高は0.4cmを測る。調整は内外面とも回転ナデである。15は須恵器の杯蓋である。口縁端部は直角気味に内傾する。調整は内外面とも回転ナデである。16・17は須恵器の杯身の口縁部である。調整は内外面とも回転ナデである。18は須恵器の环の底部である。底部外面調整はヘラ切後ナデ、胴部外面及び内面調整は回転ナデを施す。19は黒色土器A類の椀の底部である。高台は外側に向けて大きく開いている。外面調整はナデ、オサエ、内面調整はミガキを施す。20は須恵器の环身である。調整は内外面とも回転ナデである。

#### 第2c層

21は黒色土器A類の羽釜である。鍔の先端が鴻曲して上方を向く。外面調整はヨコナデ、内面調整はケズリを施す。22は須恵器の杯身である。調整は内外面とも回転ナデである。23は黒色土器A類の口縁部である。口縁部はやや内傾する。外面には調整に起因する凹凸がある。外面調整はナデ、内面調整はミガキを施す。24は黒色土器A類の椀の底部である。高台は外側に向けて大きく開いている。外面調整はヨコナデ及びオサエ、内面調整はミガキである。25・26は土師器の椀の底部である。双方とも高台は外側に向けて開いている。外面調整はナデ及びオサエ、内面調整はナデである。27は土師器の羽釜である。口縁部はやや内傾する。外面調整はヨコナデ、内面調整は工具ナデを施す。28・29・30は黒色土器A類の椀の底部である。いずれも高台は外側に向けて開く。外面調整はいずれもナデ及びオサエを施す。一方で内面調整は、28がヨコナデ、29が密なミガキを施しており、差異がある。31・32は黒色土器A類の椀である。外面調整はオサエ及びナデ、内面調整は摩滅しているが密にミガキを施す。33・34は黒色土器A類の椀である。33は高台が6.4mmと他の個体より厚い。高台は外側に向けて開いている。外面調整はオサエ及びヨコナデ、内面調整は工具ナデを施す。34は高台が垂直に近く、高台高が1.0cm程度である。外面調整はオサエ及びヨコナデ、内面調整はミガキを施す。36・38・39は黒色土器A類の椀の底部である。いずれも高台は外側に向けて開いている。いずれも外面調整はヨコナデ及びオサエ、内面調整はミガキを施す。35・40は黒色土器B類の椀の底部である。双方とも高台は外側に向けて開く。40は底が接地しかけている。双方とも外面調整はヨコナデ及びオサエ、内面調整はミガキを施す。37は黒色土器A類の羽釜である。外面調整は鍔の下部がユビオサエ、それ以外がヨコナデ、内面調整はナデを施す。41・42は瓦器椀の底部である。双方とも高台はやや外側に向けて開く。外面調整はヨコナデ及びオサエを施す。内面調整は摩滅のため不明である。43は黒色土器B類の椀である。調整は内外面とも密なミガキを施す。44は凸基式の有茎石鐵である。茎の先端が

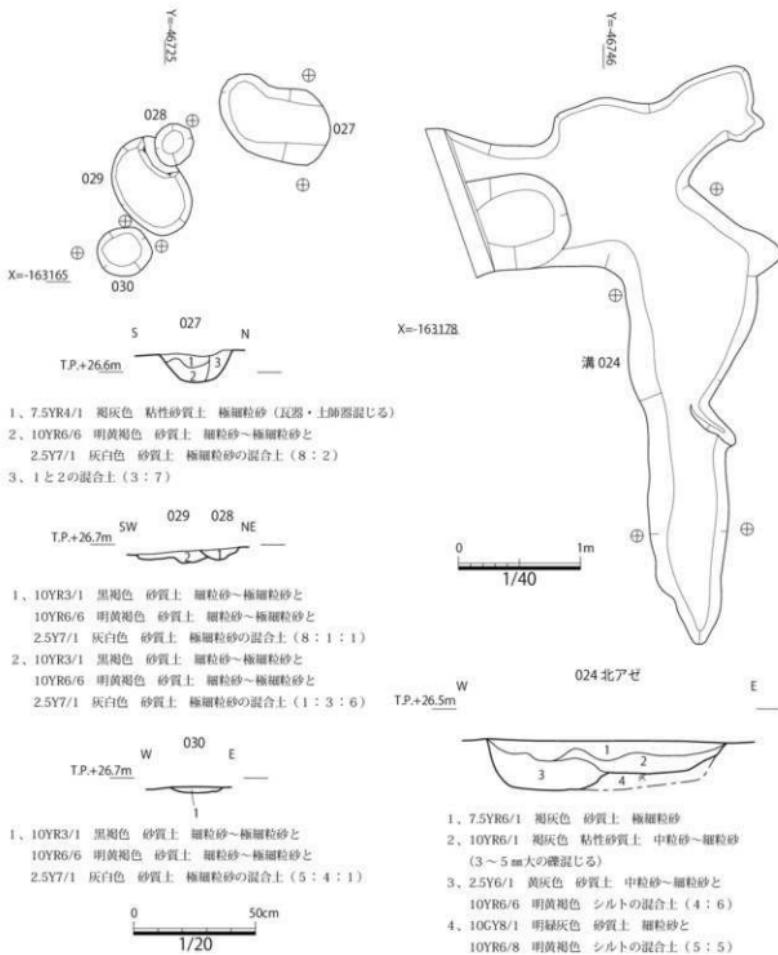


図20 2区遺構平面・断面図その1

欠損する。両面に押圧剥離を施すが、中心部の剥離は粗く平坦面ができている。弥生時代に属すると判断する。45は凹基式の無茎石鐵である。片方の関が欠損する。両面に押圧剥離を施す。46は土師器の椀の底部である。高台は外側に向けて開く。外側調整はヨコナデ及びオサエ、内面調整はナデを施す。47は須恵器の底部である。外側調整はヨコナデ、内面調整は一方向ミガキ及び工具ナデを施す。底部外面はほぼ未調整である。48は須恵器の环の底部である。高台は外側に向けて開く。調整は内外面と

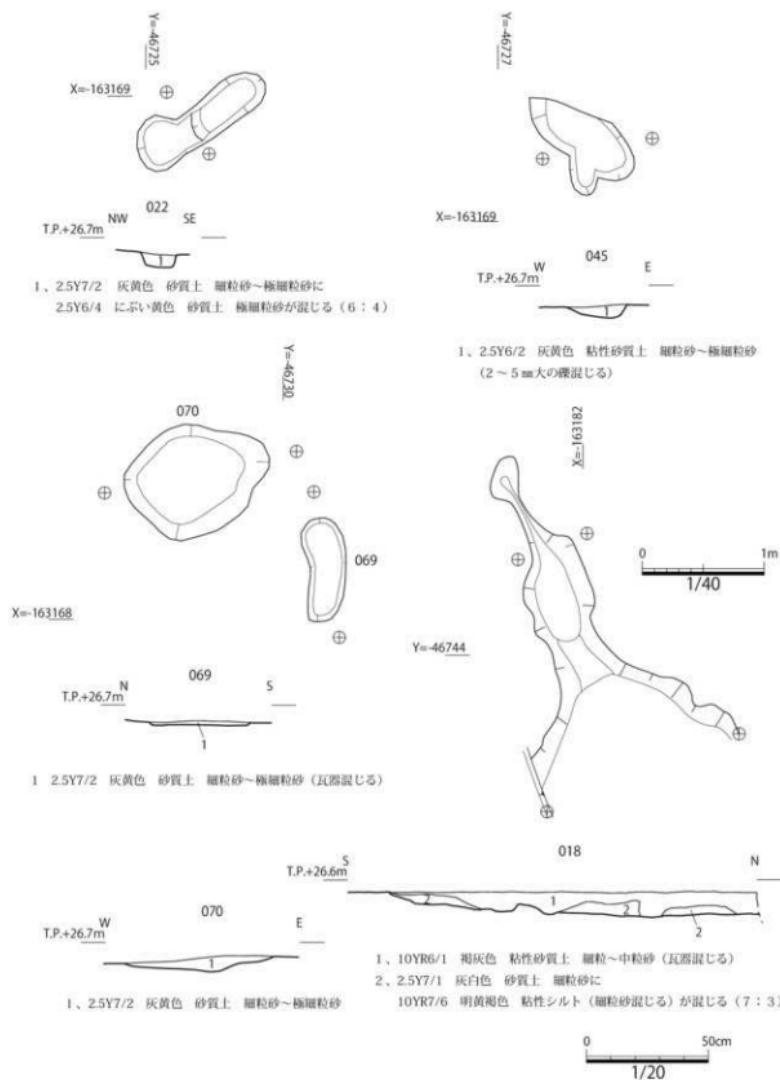


図 21 2区遺構平面・断面図その2

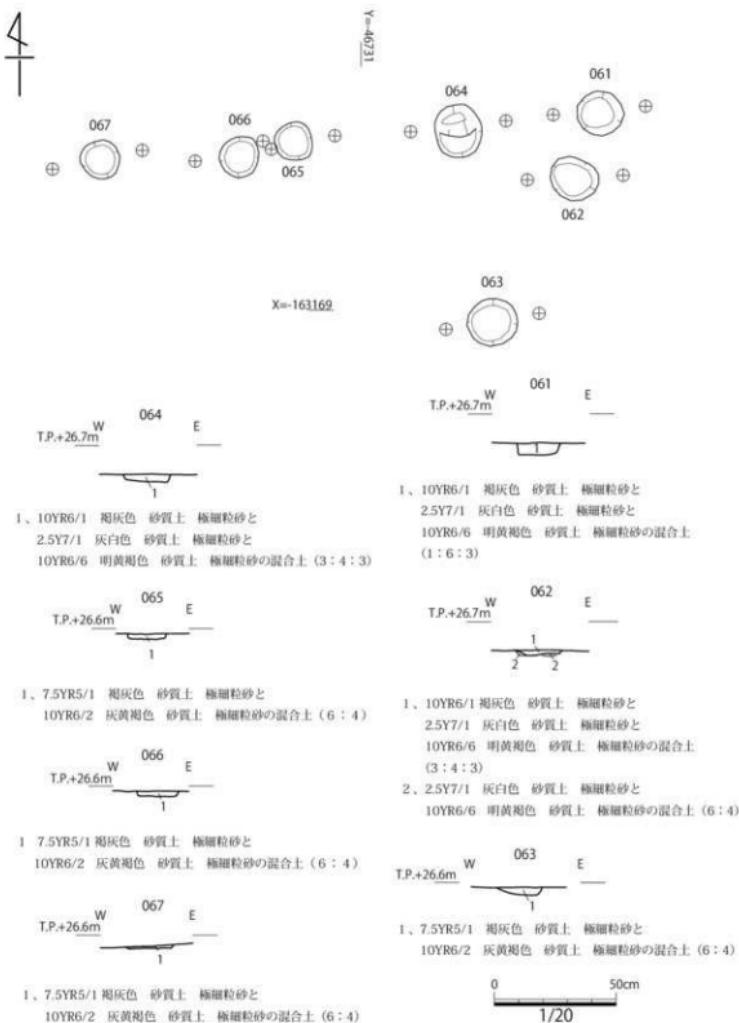


図22 2区ピット集合a平面・断面図

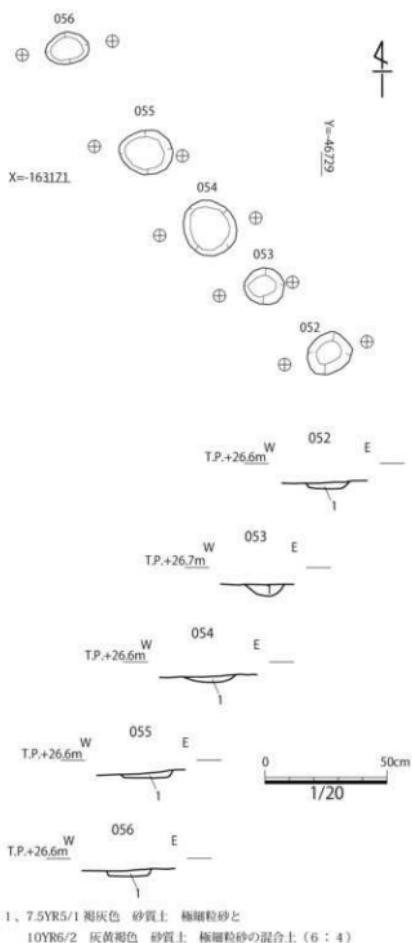


図23 2区ピット集合b平面・断面図

方を施す。68・69は黒色土器A類の椀の底部である。双方とも高台は外側に向けてやや開く。外面調整はヨコナデ及びオサエ、内面調整はミガキを施す。70・71は黒色土器A類の椀である。70の外面調整はナデ及びオサエ、内面調整は密にミガキを施す。71の外面調整は摩滅しており不明である。内面調整はミガキを施す。72・73は黒色土器A類の椀である。双方とも高台は外側に向けてやや開く。外面調整はナデ及びオサエを施す。内面調整はミガキを施しているようであるが、摩滅のためはっきり

も回転ナデを施す。底部外面は未調整である。49は須恵器の杯蓋である。口縁部は垂直に屈曲し内傾する。調整は内外面とも回転ナデを施す。50は須恵器の杯蓋である。つまみのみ残存する。51は須恵器の杯の底部である。調整は内外面とも回転ナデを施す。底部外面は未調整である。52・53は須恵器の甕の口縁部である。口縁端部をつまみ下げ、下方に屈曲させている。口縁部の外面調整及び内面調整は回転ナデを施すが、胴部はタタキのちナデを施している。53は口縁部を肥厚させている。調整は内外面とも回転ナデを施す。

55は黒色土器A類の椀の底部である。高台は外側に向けて大きく開く。外面調整はヨコナデ及びオサエ、内面調整はミガキを施す。56・57は土師器の皿である。双方とも調整は内外面ともユビナデ及びオサエを施す。58・59は瓦器椀である。双方とも調整は内外面とも密にミガキを施す。60・61は土師器の椀の底部である。60の高台は外側に向けて大きく開く。61の高台も外側に向けて開いている。双方とも外面調整はナデ及びオサエ、内面調整はヨコナデを施す。62は土師器の椀である。調整は摩滅のため不明である。63は土師器の高台部である。外面調整はヨコナデ及びオサエ、内面調整はミガキを施す。64は縁釉陶器の椀である。口縁部は外側に屈曲している。高台の断面形は外側が高い四辺形である。外面、内面とも縁釉を施釉しているが、底部外面の高台より内側は露胎している。調整は釉薬により不明だが、露胎している部分は回転ナデを施す。65は須恵器の杯蓋である。調整は内外面とも回転ナデを施す。66は須恵器の杯身である。調整は内外面とも回転ナデを施す。67は黒色土器A類の底部である。外面調整はナデ、内面調整はミ

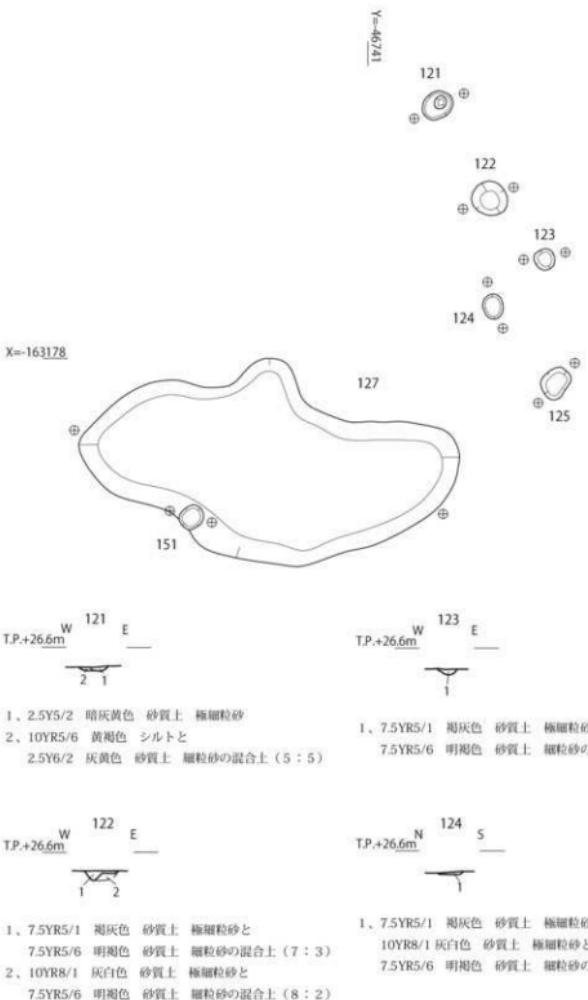


図24 2区ピット集合c平面・断面図(その1)

しない。74は黒色土器B類の椀の底部である。高台は外側に向けてやや開く。外面調整はナデ及びオサエ、内面調整は一方向ミガキを施す。75・76・77は黒色土器A類の椀の底部である。76・77の高台は外側に向けて開く。いずれも外面調整はヨコナデ及びオサエを施す。76の内面調整は一方向に粗



図 25 2区ピット集合c平面・断面図(その2)

いミガキを施す。78は黒色土器A類の椀である。口縁部を外側にわずかに屈曲させている。外面調整はケズリ、内面調整はミガキを施す。79は黒色土器A類の椀である。調整は摩滅のため不明である。80・81・82は黒色土器A類の椀である。80の外面調整はユビナデ、内面調整はミガキを施す。81は底部である。高台は外側に向けて開く。外面調整はヨコナデ及びオサエ、内面調整はミガキを施す。82は底部から口縁部まで残存する。外面調整はヨコナデ、内面調整はミガキを施す。83・84・85は黒色土器A類の椀である。83の外面調整は丁寧にヘラケズリを施す。内面調整は剥離のため不明である。85の外面調整は丁寧にケズリを、内面調整はミガキ及びハケ状工具ナデを施す。86は黒色土器B類の椀である。口縁部を外側にわずかに屈曲させている。外面調整はケズリ、内面調整はミガキを施す。87は黒色土器B類の椀である。調整は摩滅のため不明である。88は土師器の口縁部である。調整は内外面ともヨコナデを施す。89は土師器の甕である。調整は内外面ともユビナデを施す。90は瓦質の羽釜である。須恵器のように硬質になっている。調整は不明である。91は黒色土器A類の鉢である。口縁部の外面に凹みを持つ。外面調整は工具ナデ、内面調整はミガキ状のヨコナデを施す。92は黒色土器A類の鉢である。外面の口縁部付近が黒い。外面調整は丁寧にケズリを施す。内面調整は摩滅のため不明である。93は壺である。内面が黒く、黒色土器A類のように見える。内面調整は強いナデを施す。外面調整は摩滅のため不明である。94・97は黒色土器A類の羽釜である。94の外面調整はヨコナデを施す。内面調整は不明である。97は内面と外面の鈞上面が黒い。外面調整はヨコナデ、内面調整は縱方向のユビナデである。95は甕である。外面の口縁部付近が黒く、黒色土器A類に似る。内面調整は工具ナデを施す。外面調整は摩滅のため不明である。96は黒色土器A類の口縁部である。羽釜の口縁部の可能性がある。内外面とも丁寧にユビナデを施す。98は羽釜である。黒色土器A類に似る。外面調整はヨコナデを施すが粗く、粘土接合痕や皴が目立つ。内面調整は外面に比べると丁寧にナデを施している。99は羽釜である。外面の口縁部付近が黒い。鈞は剥離している。外面調整はヨコナデ、内面調整はハケ状工具ナデを施す。100は瓦器の小皿である。外面調整はユビナデ及びオサエ、内面調整はヨコナデを施す。101は瓦器椀である。外面調整はユビオサエ、内面調整はヨコナデを施す。102・103は土師質の把手である。103は全形がやや上方に向く。双方とも調整はナデである。104は縄釉陶器の底部である。高台は剥離している。底部外面には静止系切り痕が残存する。内面調整は回

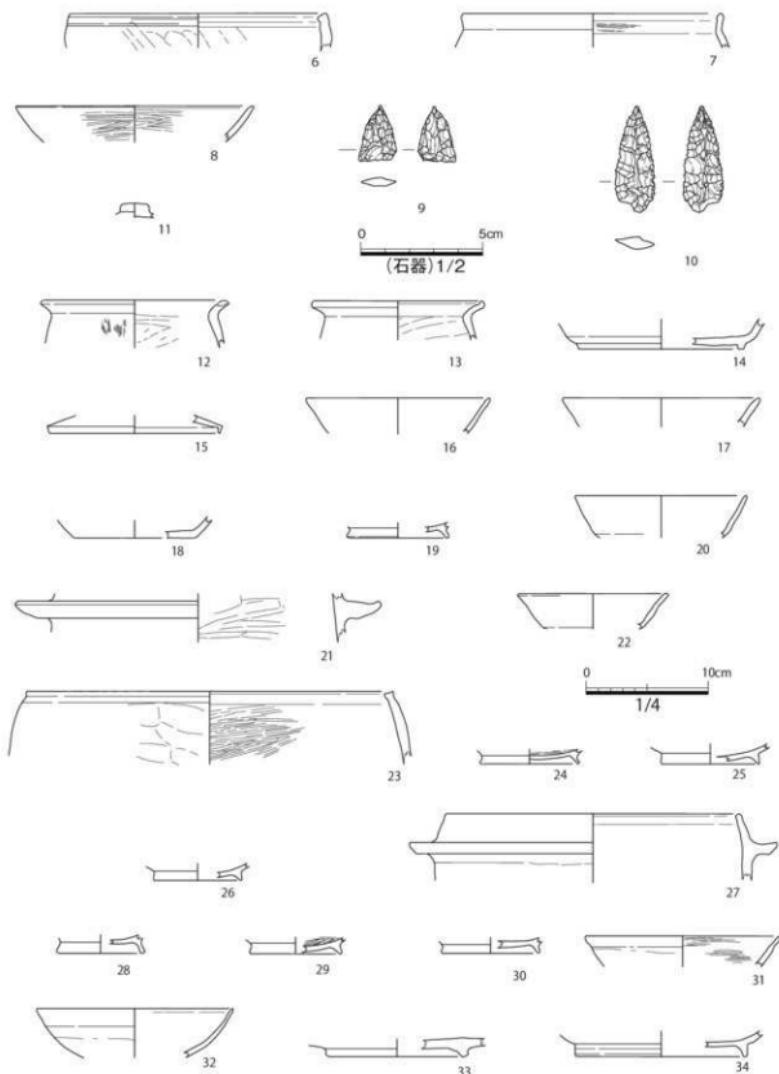


図26 2区出土遺物実測図その1

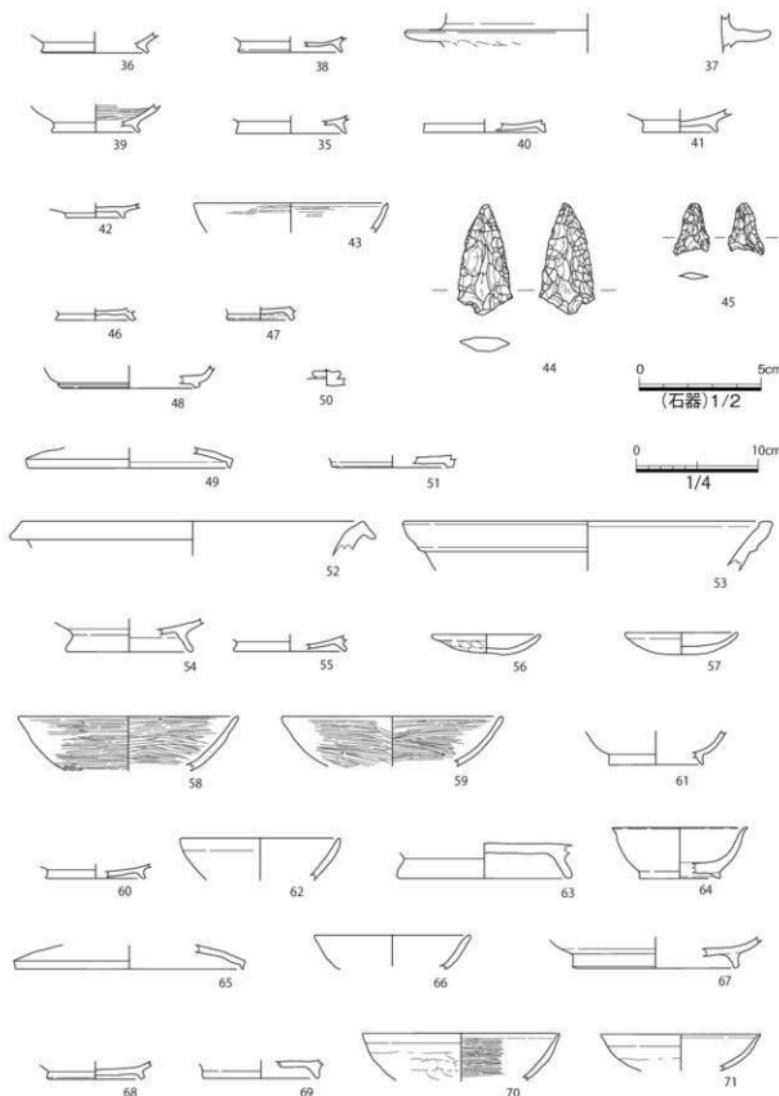


図27 2区出土遺物実測図その2

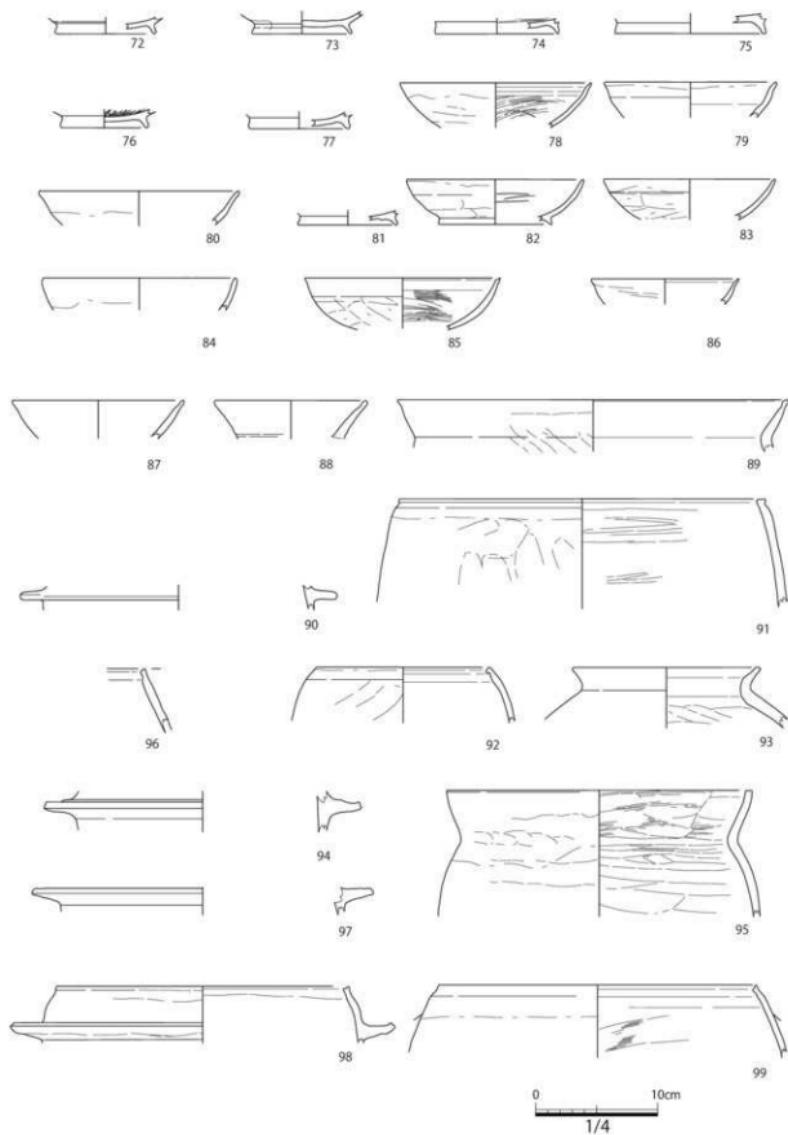


図 28 2区出土遺物実測図その3

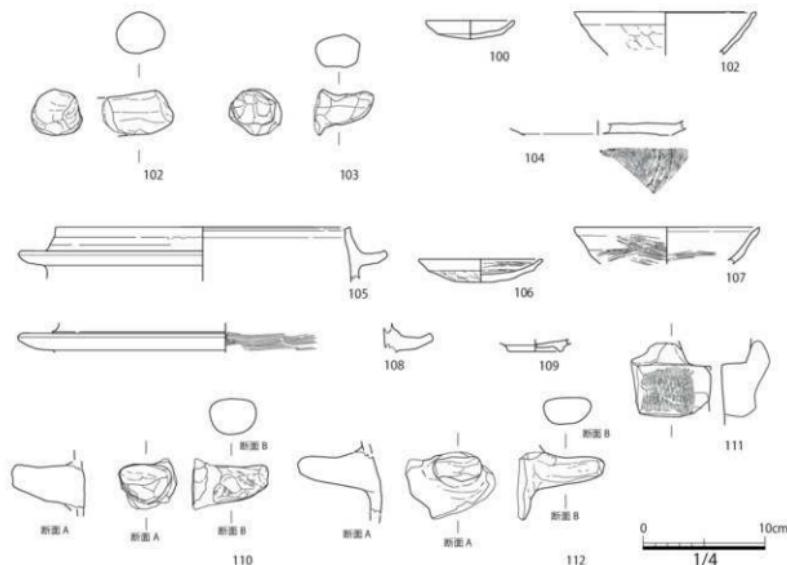


図29 2区出土遺物実測図その4

転ナデである。

#### 第2a・b層

105は土師器の羽釜である。調整は内外面ともヨコナデを施す。106は瓦器の小皿である。外面調整はユビオサエ及びナデ、内面調整はヘラミガキを施す。107は黒色土器A類の椀である。調整は内外面ともミガキを施す。108は羽釜である。内面と外面の锷上面が黒く、黒色土器A類と考えられる。外面調整はヨコナデ、内面調整はヨコハケを施す。109は瓦器椀の底部である。外面調整はヨコナデ、内面調整はミガキを施す。110は把手である。内面が黒く黒色土器A類と考えられる。調整は工具ナデ及びユビナデである。111は瓦である。内面に縄目が残る。

#### 東側溝

112は把手である。110と同様の特徴を持つ。

## 第4節 3区の調査成果

### 第1項 層序

3区の層序は上から順に宅地造成土（第0層）、現代耕作土（第1層）、中世耕作土（第2層）、地山（第4層）である。第2層（土色4）はわずかに出土した遺物から中世に属すると判断する。第4層は上層の灰白色の粘性シルト層（土色5）と下層の風化礫を多く含む灰白色と橙色の粘性砂質土層（土色6）に分けられる。

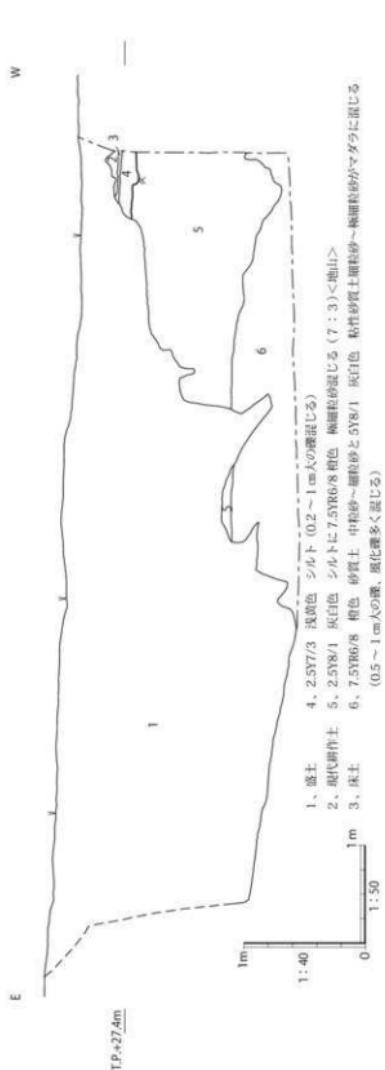


図 30 3区南壁土層断面図



図 31 4区東壁土層断面図

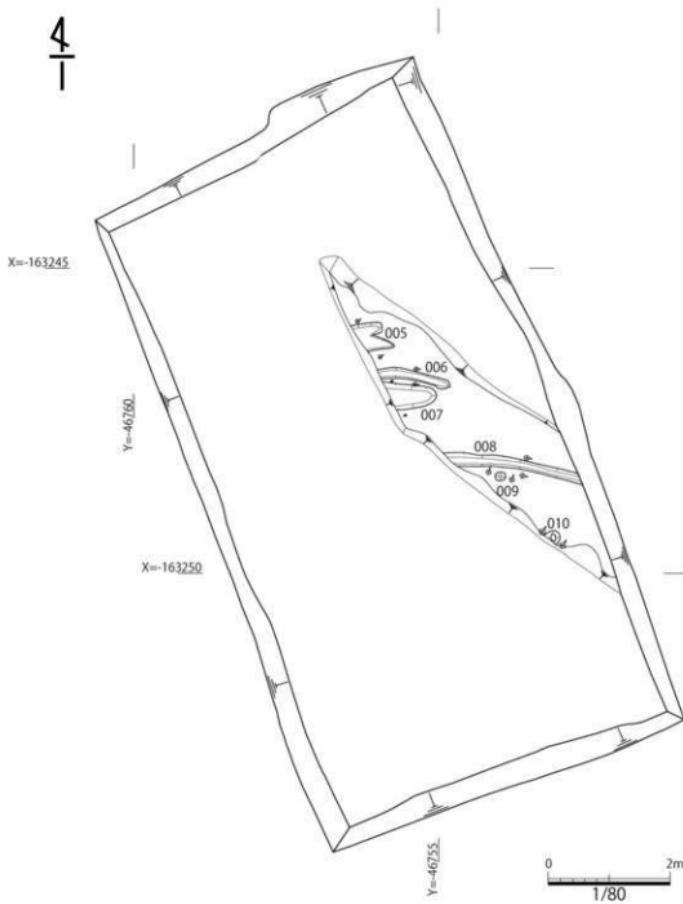


図 32 4区全体図

## 第2項 検出した遺構

調査区全体が団地造成に伴い搅乱されており、遺構は残存していなかった。

## 第3項 出土遺物

遺物は現代耕作土から土師器や瓦器が出土した。小片のため図化はしていない。

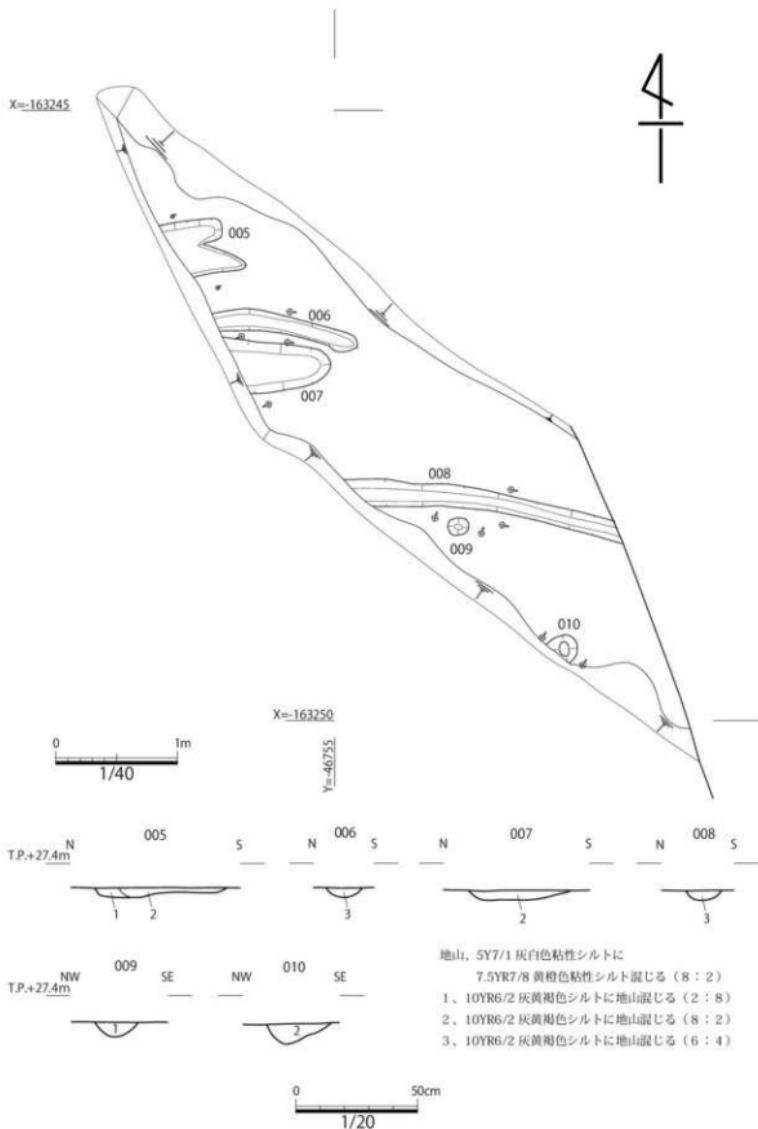


図33 4区遺構平面・断面図

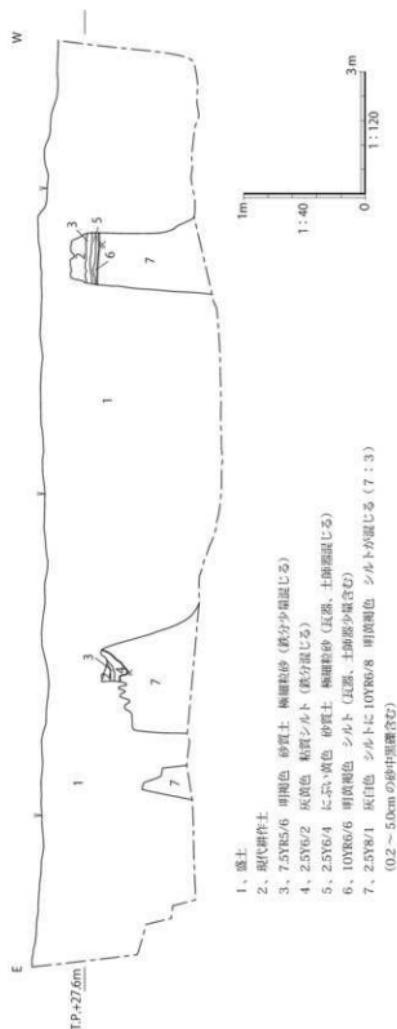


図 34 5 区南壁土層断面図

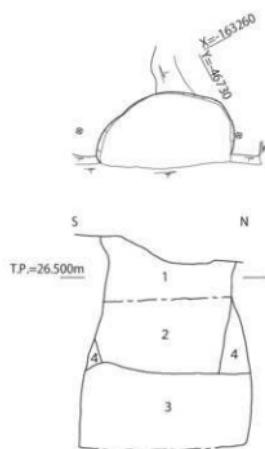


図 35 5 区井戸 003 平面・断面図

## 第5節 4区の調査成果

### 第1項 層序

4区の層序は上から順に宅地造成土（第0層）、現代耕作土（第1層）、中世耕作土層2層（第2層）、地山（第4層）である。第2層は耕作土（土色4）及び床土（土色5）と考えられる。出土した遺物から中世に属すると判断する。第4層の地山は灰白色の粘性シルト層（土色6）である。

### 第2項 検出した遺構

遺構は第4層上面で検出した。検出した遺構の種別はピット、溝である。溝005～008は耕作に伴う溝と考えられる。溝005～007は鋤溝と考えられる。ピット009・010はどちらも円形である。溝007からは黑色土器・瓦器碗が、ピット

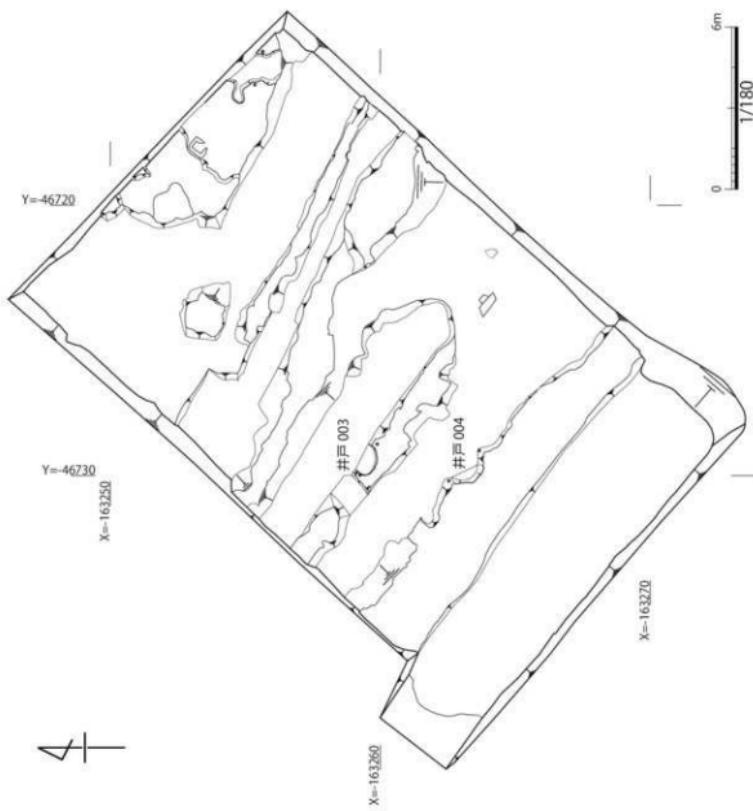


図 36 5区全体図

010からは瓦器・土師器が出土しており、いずれも中世に属すると判断する。

### 第3項 出土遺物

遺物は第2層及び遺構から土師器や瓦器が出土した。小片のため図化はしていない。

## 第6節 5区の調査成果

### 第1項 層序

5区の層序は上から順に宅地造成土（第0層）、現代耕作土（第1層）、中世耕作土層2層（第2層）、地山（第4層）である。第2層は耕作土（土色5）及び床土（土色6）と考えられる。出土した遺物か

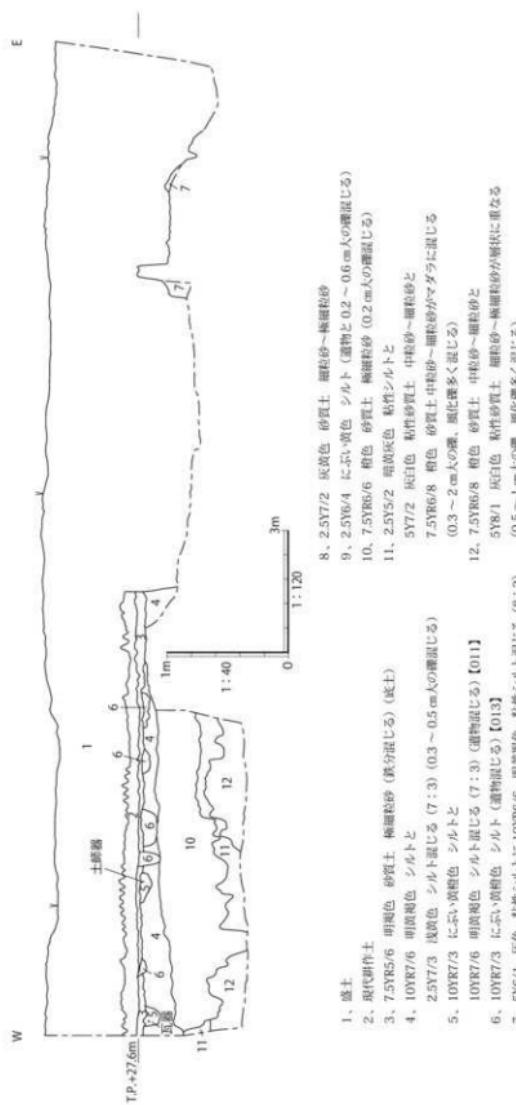


図 37 6区東壁土層断面図

ら中世に属すると判断する。第4層は灰白色と明黄褐色の粘性シルト層（土色7）である。

## 第2項 検出した遺構

遺構は第4層（土色7）上面で検出した。検出した遺構の種別は井戸、溝である。井戸003・004は調査区の西側で検出した。どちらも枠組は確認できなかったため、素掘りの井戸と考えられる。遺物は井戸002からは瓦器、鉢、瓦が、井戸003から土師器と須恵器の破片が出土した。時期は井戸002が中世以降のものと考えられる。溝002は調査区の東側で検出した。遺物は出土していないため、時期は不明である。

## 第3項 出土遺物

遺物は井戸003から土師器や須恵器、井戸004から瓦器や鉢、瓦が出土した。小片のため図化はしていない。

## 第7節 6区の調査

### 成果

#### 第1項 層序

6区の層序は上から順に宅地造成土（第0層）、現代耕作土（第1層）、地山（第4層）である。地山は上層の明黄褐色と浅黄色のシルト層（土色4）、中層の暗黄灰色粘性シルトと灰白色粘性砂質土層（土色11）、下層の風化礫を多く含む灰白色と橙色

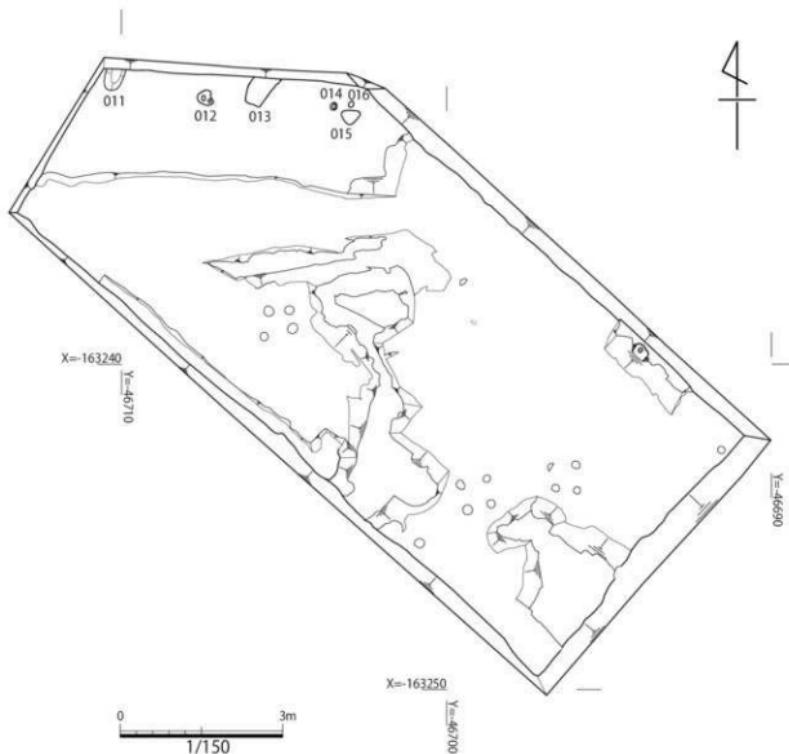


図38 6区全体図

の粘性砂質土層（土色12）の3層に分けられる。

## 第2項 検出した遺構

遺構は第4層上面で検出した。検出した遺構の種別は柱穴、土坑、ピット、溝である。柱穴001は6区の東側で検出した。本来の掘り込み面は圃地建設に伴い削平されており、柱穴の底部分が僅かに残存していた。遺物は出土していないため明確な時期は不明だが、平面形が角丸方形であるため、古代に属すると考えられる。周囲は擾乱を受けており、同時期の遺構はほかに確認できなかった。溝011は6区の外に続く東西方向の溝である。遺物は土師器や瓦器が出土した。土坑013・015からは土師器や瓦器が出土した。ピット014は円形である。遺物は瓦器が出土した。遺構の時期は出土遺物から中世に属すると判断する。

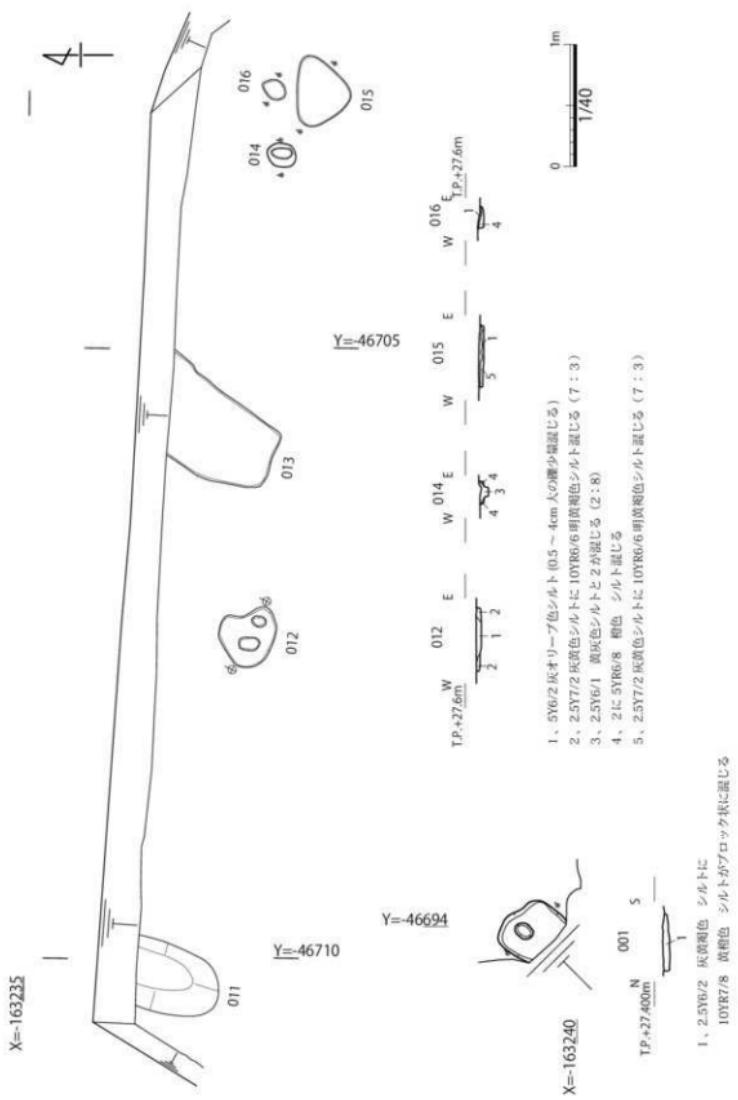


図39 6区遺構平面・断面図

### 第3項 出土遺物

遺物は遺構から土師器や瓦器が出土した。小片のため図化はしていない。

## 第4章 総括

### 古墳時代以前

今回の調査地点では、古墳時代以前の遺構は認められなかったが、1区で縄文時代に属する石礫が出土した。また2区でも弥生時代に属する石礫が出土しており、縄文時代から弥生時代にかけての人類活動の痕跡が認められる。一方で既往の調査で出土しているような古墳時代の遺構・遺物は認められない。

### 古代

遺構は6区で柱穴001を検出した。遺物は出土していないものの、平面形が角丸方形であるため古代に属する遺構と考える。地山は6区の標高がT.P.+27.56mで5区とともに一番高いことから、標高の高い安定した位置に古代の掘立柱建物は建築されたものと推測できる。恐らく同遺構の周辺には他にも柱穴が存在していたはずだが、団地造成時の搅乱と削平を激しく受けており、遺構は残存していない。遺物は2区南東寄りで確認した自然堆積層と思しき第3層から8世紀の須恵器が出土している。また2区の中世耕作土である第2c層からは10世紀ごろの特徴を持つ黒色土器が大量に出土しており、周辺に当該期の遺構が存在することが示唆される。

### 中世

これまでの調査成果とは様相が異なり、最大3層に及ぶ中世の耕作土層と、耕作に伴う溝や土坑に加え、2区で性質不明のピット群を検出した。中世耕作土層は包含する遺物から第2a層が15世紀ごろ、第2c層が12世紀から13世紀に形成されたと考えている。既往の調査からは多くの粘土採掘土坑が15世紀代に掘削された事が判明している。周辺で粘土が採掘されるようになっても、今回の調査区では耕作を継続していたことが明らかとなった。今回の調査区内には、土器を製作するのに適した地山が存在しなかったのであろう。

第2c層の下で検出した、性質不明の多くのピットは平面形が円形をしている。規模は直径10~30cmであるが、20cm程度のものが多い。深さは2~10cmのものがほとんどである。遺物はほとんど出土していないが、埋土に瓦器が含まれているものが僅かに存在するため中世に属すると考えている。当初は建物や柵列などの遺構を想定したが、整然と並ぶ形での検出は出来なかった。このことから、これらのピットは柱穴ではない別の遺構であることが考えられる。各地の遺跡で見つかっている轆轤ピットと断面形状は異なるが、周辺で土器製作のためと思しき粘土採掘土坑が掘削されていることから、土器製作の際の轆轤ピットである可能性も考慮しておきたい。

### 近世

近世以降では、井戸が数基見つかっているが基本的に耕作地として利用されている。こうした農村としての景観は、1950年代における八田荘住宅の建設まで基本的に継続していく。

## 引用・参考文献

- 大阪府教育委員会 1988『平井遺跡』
- 大阪府教育委員会 2005「深井清水町C遺跡（04010）」『大阪府教育委員会文化財調査事務所年報』9
- 大阪府教育委員会 2011「宮園遺跡（10061）」『大阪府教育委員会文化財調査事務所年報』15
- 大阪府教育委員会 2018『宮園遺跡』大阪府埋蔵文化財調査報告 2017-2
- 大阪府教育委員会 2020『宮園遺跡Ⅱ』大阪府埋蔵文化財調査報告 2019-2
- 大阪府教育委員会 2022『宮園遺跡Ⅲ』大阪府埋蔵文化財調査報告 2021-2
- 大阪府文化財調査研究センター 1996『深井清水遺跡』（大阪府文化財調査研究センター調査報告書 第12集）
- 尾上寅・森島康雄・近江俊秀 1995『瓦器概』中世土器研究会『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
- 堺市教育委員会 1981「深井清水町遺跡発掘調査報告－A地点第1地区・第2地区－」『堺市文化財調査報告』第9集
- 堺市教育委員会 1981「深井清水町遺跡発掘調査報告－B地点第1地区・第2地区－」『堺市文化財調査報告』第9集
- 堺市教育委員会 1983「深井清水町遺跡発掘調査報告－B地点第3地区－」『堺市文化財調査報告』第13集
- 堺市教育委員会 1986『土師南遺跡（HAZ-S）発掘調査報告』（堺市文化財調査報告 第26集）
- 堺市教育委員会 1987「堺上町遺跡発掘調査報告書－近畿相互銀行深井支店建設に伴う事前調査－」『堺市文化財調査報告』第36集
- 堺市教育委員会 1989a「八田北町遺跡発掘調査報告I－公共下水道八田下水路（第4工区・第5工区）築造に伴う緊急発掘調査－」『堺市文化財調査報告』第48集
- 堺市教育委員会 1989b「八田北町遺跡発掘調査報告II－都市計画道路南花田鳳西町線建設に伴う緊急発掘調査－」『堺市文化財調査報告』第48集
- 堺市教育委員会 1992「深井幡池遺跡」『堺市文化財調査概要報告』第31集
- 堺市教育委員会 1997「堺上町遺跡発掘調査概要報告－HAC-3地点 堀上町－」『堺市文化財調査概要報告』第66集
- 堺市教育委員会 2008「宮園町東遺跡（MZCH-1）」『堺市文化財調査報告』第118集
- 鶴柄俊夫 1989a「大阪府南部の瓦質土器生産について（1）」『大阪文化財論集』大阪文化財センター
- 鶴柄俊夫 1989b「大阪府南部の瓦質土器生産（2）」『中近世土器の基礎研究』V 日本中世土器研究会
- 趙哲済 1988「平井遺跡の地形と地質」『平井遺跡』大阪府教育委員会
- 織 伸一郎 2007「大阪の瓦質土器－南部地域を中心として－」『第26回 中世土器研究会 瓦質土器の出現と定着－瓦質土器を考える（前編）－』（発表資料集）
- 織 伸一郎 2010「堺環濠都市遺跡から出土した“捕る”“卸す”焼き物」『備前市歴史民俗資料館紀要』12
- 土山健史 1989「堺環濠都市遺跡における15・16世紀の在地土器」『中近世土器の基礎研究』V 日本中世土器研究会

# 遺構一覧表

遺構番号	調査区・地区	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	備考	遺構番号	調査区・地区	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	備考	
152	I 区域	土坑	40	5		土師器		209	I 区域	溝		10	1		土師器	
153	I 区域	ピット	35	4		瓦器		210	I 区域	溝						
154	I 区域	ピット	43	4		瓦器		211	I 区域	ピット	30	1				
155	I 区域	ピット	31	2		土師器・瓦器		212	I 区域	土坑	42.5	1				
156	I 区域	ピット	26	4.5		土師器・瓦器		213	I 区域	ピット	31	8.5				
157	I 区域	土坑	30	3		土師器・瓦器		214	I 区域	土坑					土師器・瓦器	
158	I 区域	土坑	92	5		土師器・黒色土器・瓦器		215	I 区域	ピット	16	1.5		土師器		
159	I 区域	ピット	41	10		土師器・瓦器		216	I 区域	土坑	33	~	3.5	土師器・瓦器		
160	I 区域	土坑	61	2.5		土師器・瓦器		217	I 区域	ピット	17	1.5				
161	I 区域	土坑						218	I 区域・Ⅳ	井戸						
162	I 区域	土坑						219	I 区域	ピット	18	10				
163	I 区域	ピット	45	5.5		土師器・瓦器		220	I 区域	土坑	43	4				
164	I 区域	ピット	21.5	6				218.2	Ⅱ 区域	溝	3.0	0	180	~	10	土師器・瓦器
165	I 区域	ピット	27	4.5				~								
166	I 区域	ピット	18	4.5				019.2	Ⅱ 区域	溝	58	10	2			
167	I 区域	ピット	26	3.5				020.2	Ⅱ 区域	溝	3.7	0	70	8		土師器
168	I 区域	土坑	22	2				021.2	Ⅱ 区域・Ⅳ	溝	44	11	2			
169	I 区域	土坑				土師器・須恵器・瓦器		022.2	Ⅱ 区域	溝	44	16	2			
170	I 区域	ピット	52	5.5		土師器・瓦器・鉢		023.2	Ⅱ 区域	溝	74	12	2			
171	I 区域	土坑	71	48		瓦器		024.2	Ⅱ 区域・Ⅳ	溝	4.7	5	224			土師器
172	I 区域	溝						025.2	Ⅱ 区域・Ⅳ	土坑	50	42	8			
173	I 区域	溝	43	4.5		瓦器		026.2	Ⅱ 区域	ピット	Φ 27			2		
174	I 区域	溝	125	5		土師器・瓦器		027.2	Ⅱ 区域	溝	40	~	30	13		土師器・瓦器
175	I 区域	土坑				須恵器・瓦器		028.2	Ⅱ 区域	ピット	Φ 16	5		土師器		
176	I 区域	土坑	52	2		瓦器		029.2	Ⅱ 区域	ピット	45	30	5			
177	I 区域	ピット	15	11				030.2	Ⅱ 区域	ピット	Φ 21			3		黒色土器
178	I 区域	ピット	10	1				031.2	Ⅱ 区域	土坑	103	75	9			
179	I 区域	ピット	18	2.5				032.2	Ⅱ 区域	土坑	117	80	11			
180	I 区域	ピット	25	3		瓦器		033.2	Ⅱ 区域	土坑	65	52	10			土師器
181	I 区域	土坑	47	5.5				034.2	Ⅱ 区域	不明土器	32	13	4			
182	I 区域	ピット	21	2.5				035.2	Ⅱ 区域	土坑	64	45	6			
183	I 区域	土坑	10	1				036.2	Ⅱ 区域・Ⅳ	不明土器	120	21	5			土師器
..1								037.2	Ⅱ 区域	溝?	60	15	6			土師器・瓦器
183.1	I 区域	土坑	15	3				038.2	Ⅱ 区域・Ⅳ	ピット	26	24	5			
2								039.2	Ⅱ 区域	ピット	Φ 16			3		
183.2	I 区域	土坑	19	3				040.2	Ⅱ 区域	ピット	Φ 20			5		
3								041.2	Ⅱ 区域	ピット	Φ 21			2		
183.3	I 区域	土坑	20	3.5				042.2	Ⅱ 区域	溝	29	26	5			
4								043.2	Ⅱ 区域	土坑	72	58	6			
183.4	I 区域	土坑	30.5	4				044.2	Ⅱ 区域	ピット	27	14	4			土師器
5								045.2	Ⅱ 区域・Ⅳ	土坑	40	~	26	6		土師器・瓦器
184	I 区域	ピット	20	1.5				046.2	Ⅱ 区域	ピット	28	20	4			
185	I 区域	ピット	28	1.5		土師器		047.2	Ⅱ 区域	土坑	48	26	2			
186	I 区域	土坑	46.5	1.5		土師器		049.2	Ⅱ 区域	土坑	55	42	10			
187	I 区域	溝	95	8		石器		050.2	Ⅱ 区域	ピット	Φ 24			2		
187	I 区域	溝	67	8.5		土師器		051.2	Ⅱ 区域	土坑	55	44	13			
188	I 区域	土坑						052.2	Ⅱ 区域	ピット	Φ 18	3				
189	I 区域	土坑						053.2	Ⅱ 区域	ピット	Φ 16	5				
190	I 区域	ピット	13.5	8.5		土師器・瓦器		054.2	Ⅱ 区域	ピット	Φ 21			3		
191	I 区域	ピット	22	1.5				055.2	Ⅱ 区域	ピット	Φ 21			3		
192	I 区域	ピット	25	2				056.2	Ⅱ 区域	ピット	Φ 18			3		
193	I 区域	土坑	77	3				057.2	Ⅱ 区域	土坑	58	45	9			
194	I 区域	ピット	25	4				058.2	Ⅱ 区域・Ⅳ	土坑	180	110	3			
195	I 区域	ピット	25	3				059.2	Ⅱ 区域	ピット	63	16	9			
196	I 区域	ピット	20	1.5				060.2	Ⅱ 区域	ピット	Φ 17			7		
197	I 区域	土坑	63	1				061.2	Ⅱ 区域	ピット	Φ 18			5		
198	I 区域	ピット	21	1				062.2	Ⅱ 区域	ピット	Φ 19			2		
199	I 区域	ピット	20	1		瓦器		063.2	Ⅱ 区域	ピット	Φ 19			3		
200	I 区域	ピット	15	1		土師器		064.2	Ⅱ 区域	ピット						
201	I 区域	ピット	11	1				065.2	Ⅱ 区域	ピット	Φ 16			2		
202	I 区域	溝	16	1		瓦器		066.2	Ⅱ 区域	ピット	Φ 17			2		
203	I 区域	ピット	13	1		瓦器		067.2	Ⅱ 区域	ピット	Φ 20			2		
204	I 区域	溝	8	1				068.2	Ⅱ 区域	ピット	Φ 25			2		
205	I 区域	溝	16	1.5				069.2	Ⅱ 区域・Ⅳ	ピット	41	16	2			土師器・瓦器
206	I 区域	ピット	20	1				070.2	Ⅱ 区域	60	46	7			土師器・黒色土器	
207	I 区域	ピット	28	2.5				071.2	Ⅱ 区域	ピット	20	10	2			
208	I 区域	ピット	20	1				072.2	Ⅱ 区域	ピット	Φ 30			7		
								073.2	Ⅱ 区域	ピット	50	44	7			

遺構番号	調査区・地区	種別	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
074	2区1	ピット	30	16	4		
075	2区1	ピット	Φ24	3			
076	2区1	土坑	142	18	10~20		
077	2区1	ピット	43	37	19		
078	2区1	溝	55~	30	4		
079	2区1	ピット	33	30	8	土師器	
080	2区1	ピット	Φ20	2			
081	2区1	ピット	Φ31	6			
082	2区1	ピット	Φ25	8			
083	2区1	ピット	Φ20	5			
084	2区1	ピット	Φ12	4			
085	2区1	ピット	Φ18	3			
086	2区N	ピット	42	32	8		
087	2区N	ピット	31	28	8		
088	2区N	不明	48	20	4		
089	2区N	ピット	Φ21	3			
091	2区N	ピット	47	40	6		
092	2区N	土坑	Φ38	7			
093	2区N	土坑	110	49	3		
094	2区N	土坑	55	47	4		
095	2区N	土坑	46	36	2		
096	2区N	土坑					
097	2区N	土坑	110	80	10		
098	2区N	不明	35	18	3		
099	2区N	ピット	47	32	5		
101	2区V	土坑	95~	61	6		
102	2区N	ピット	48	4			
103	2区N	土坑	93	58	7		
104	2区N	ピット	58	52	12		
105	2区N	土坑	106	58	11		
106	2区N	不明	22	10	10		
107	2区N	ピット	23	23	4		
108	2区N	ピット	17	17	4		
109	2区N	土坑	48	48	11		
110	2区N	土坑	96	85	8		
111	2区N	ピット	Φ20	2			
112	2区N	ピット	35	22	3		
113	2区N	土坑	100	78	7	土師器・瓦器	
114	2区N	土坑	44	42	5		
116	2区N	ピット	41	35	4		
117	2区N	ピット	54	41	14		
118	2区N	ピット	30	30	3		
119	2区N	ピット	37	31	14		
120	2区N	ピット	Φ15	8			
121	2区N	ピット	25	25	4		
122	2区N	ピット	Φ28	8			
123	2区N	ピット	Φ16	5			
124	2区N	ピット	21	18	3		
125	2区N	ピット	Φ11	3			
126	2区M	ピット	25	2			

遺構番号	調査区・地区	種別	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
127	2区M	土坑	290	120	6	土師器・瓦器	
128	2区M	ピット	Φ26	7			
129	2区M	ピット	Φ16	5			
130	2区M	溝	400	150	16		
131	2区M			48	9		
132	2区M			20	3		
133	2区M			82	6	土師器	
134	2区M			22	3		
135	2区M			28	5		
136	2区M			63	9		
137	2区M			70	4		
138	2区M			23	2		
139	2区M			55	14		
140	2区M	ピット		17	5		
141	2区M	ピット	Φ17		10		
142	2区M	ピット					
143	2区M	ピット	Φ18		6		
144	2区M・V	ピット	Φ13		2		
145	2区M	ピット	Φ14		3		
146	2区M	ピット	Φ35		22	8	
147	2区M・V	ピット	Φ19		5		
148	2区M	土坑		128	7	土師器	
149	2区M	ピット		28	4		
150	2区M	ピット		23	6		
151	2区M	ピット		17	4		
005	4区	陶器	20~	4			
006	4区	陶器		4			
007	4区	陶器		5	褐色土器・瓦器		
008	4区	陶器		5			
009	4区	ピット		7			
010	4区	ピット		10	土師器・瓦器		
005	5区	溝	20~	108	13		
006	5区	陶器		~			
007	5区	井戸	105	31~		土師器・陶器	
008	5区	井戸	13~	30~		瓦器・鉢・瓦	
009	6区	井戸	50	42~	6		
011	6区	土坑?	75~	28	14	土師器・瓦器	
012	6区	ピット?	53	43	4	遺?	
013	6区	土坑?	11~	47	75	13 土師器・瓦器	
014	6区	ピット	24	20	8	瓦器	
015	6区	遺跡?	55	48	4	瓦器	
016	6区	ピット?	20	16	5		
017	6区下層	ピット?	53	52	24		

## 遺物観察表

観察No.	地区名	遺構・部位	種類	基盤	法面			色調	射土	焼成	残存率	備考
					口径	高さ	底					
1	4	I-X	175	須恵器	◎	(残)38.9		(内)N7灰白色 (外)2.5Y6/1黄灰色 (底)	射2mm以下 の長石含む	良好	内面底部分に自然の 縦付着反転現象	
2	112	I-X・X	187	石器		(残)	縦大長26 縦大幅12 厚み0.4 (底)	(内)7.5Y8E-6橙色 (外)SYR7/6橙色 (底)10Y8E-6明黄色	射(黒褐色含む) 白灰色の粒を含む	50%	反転現象	
3	43	I-X	灰色紺質土	土師器	小皿	(7.2)	(残)13.3	(内)N7灰白色 (外)2.5Y6/1灰白色 (底)NS/灰白色	射(黒褐色含む) 白灰色の粒を含む	良	60%	反転現象
4	44	I-M	灰色紺質土	瓦器	小皿	(8.6)	(残)2.0	(内)N5/灰白色 (外)2.5Y6/1灰白色 (底)NS/灰白色	射(黒褐色含む)	良		

報 No.	実 測 No.	地区名	温帶・寒带	種類	基種	法基 ( )は厘米値			色調	微土	既成 残存 率	備考				
						口径	高さ 底 +高程	その他								
								(残)								
5	103	I-VI	灰色砂質土	土師器	土黒				最大長 14.1 (内) 最大幅 5.55 (内) 最大厚 3.4 (内)	白( 雜細な 白褐色の砂 粒少し含む )		既存胸体 のみ				
6	3	2-VI	黑色土器 B型	(口縁部)	20.6	(残)29?			(内) 2.5YR 7/4 に赤い黄褐色 (内) 10YR 4/1 褐灰色 (内) 7.5YR 5/4 に赤い褐色 (内) 7.5YR 5/4 に赤い褐色	密( 1mm 以下 の長石含む )		反転復原				
7	2	2-VI	018 アゼ	瓦四脚器	鉢	21.0	(残)2.8		(内) NS/ 灰色 (内) NA/ 灰色 (内)	中や密( 0.5mm 以下の石膏 含む )		反転復原				
8	1	2-II	069	須恵器	鉢	19.4	( 残 )3.0 cm		(内) NG/ 灰色 (内) NG/ 灰色 (内) NG/ 灰色 (内)	密( 1mm の石 良好 含む )		反転復原				
9	109	2-IV	褐色粘質土	石織			(残)		最大長 2.3 (内) 最大幅 1.6 (内) 厚み 0.35 (内)							
10	110	2-IV	褐色粘質土	石織			(残)		最大長 4.4 (内) 最大幅 1.5 (内) 厚み 0.5 (内)							
11	30	2-IV	褐色粘質土	土師器	つまみ		(残)1.2		つまみ ( 内 ) 2.5YR 4/4 褐黄色 (外) 5YR 6/6 褐色 (内) 5YR 5/6 明小褐色	密	良 5%	反転復原				
12	31	2-IV	褐色粘質土	土師器	瓶		(残)3.8		基部 ( 内 ) 10YR 7/3 に赤い黄褐色 (内) 7.5YR 6/4 に赤い褐色 (内) 5YR 6/6 褐色	白( 雜細な 白い粒を含 む )	10%	反転復原				
13	42	2-IV	褐色粘質土	土師器	瓶		( 残 )3.2		(内) 10YR 6/3 に赤い黄褐色 (内) 10YR 7/3 に赤い黄褐色 (内) 5YR 6/6 褐色	白( 雜細な 白い粒を含 む )	5%	反転復原				
14	32	2-IV	褐色粘質土	須恵器	(高台部)		( 残 )2.5		(内) N7/ 褐色 (内) NS/ 灰色 (内) NG/ 灰色	密( 1mm 以下 の白い粒を 含む )	良 10%	反転復原				
15	38	2-IV	褐色粘質土	須恵器	瓶	(14.0)	( 残 )1.5		(内) 7.5Y 5/1 褐色 (内) 7.5Y 6/1 灰色 (内) 7.5Y 6/3 に赤い褐色	密	良 5%	反転復原				
16	39	2-IV	褐色粘質土	須恵器	杯	(15.0)	( 残 )2.9		(内) 5YR 6/6 灰色 (内) NG/ 灰色 (内) N7/ 褐色	白( 雜細な 白い粒を含 む )	5%	反転復原				
17	40	2-IV	褐色粘質土	須恵器	杯	(16.0)	( 残 )2.4		(内) NS/ 灰色 (内) NS/ 灰色 (内) NS/ 灰色	密( 1mm 以下 の白い粒を 含む )	5%	反転復原				
18	41	2-IV	褐色粘質土	須恵器	杯		( 残 )1.8		底径 (10.0) (内) 2.5YR 1/1 黄灰色 (内) 2.5YR 7/1 褐灰色 (内) 2.5YR 1/1 黄灰色	白( 雜細な 白い粒を含 む )	10%	反転復原				
19	97	2-V	褐色粘質土	黑色土器 A型	桿		( 残 )1.3		底径 (8.0) (内) SYR 3/0 オリーブ黒色 (内) 7.5YR 8/4 淡褐色 (内) 10YR 5/2 从灰褐色 (内) 10YR 8/2 灰白色	白( 雜細な 白系色の粒 を含む )	0.05	反転復原				
20	33	2	褐色粘質土	須恵器	杯	(14.0)	( 残 )3.5		(内) NS/ 灰色 (内) NS/ 灰色 (内) NS/ 灰色	密( 1mm 以下 の白い粒を 含む )	5%	反転復原				
21	62	2-I	灰色砂質土	黑色土器 A型	羽垂		( 残 )4.0		羽部最大径 (内) 7.5YR 6/6 棕色 (内) 10YR 4/1 褐灰色 (内) 10YR 5/2 从灰褐色 (内) 10YR 8/2 灰白色	白( 雜細な 白灰色の粒 を含む )	5%	反転復原				
22	27	2-I	灰色砂質土	須恵器	杯身		( 残 )2.9		(内) N7/ 褐色 (内) N7/ 褐色 (内) N7/ 褐色	白( 3mm の白 い粒と 雑細な白灰 色の粒を含 む )	5%	反転復原				
23	63	2-1-II IV・V・VI	灰色砂質土	黑色土器 A型?	(口縁部)	(30.0)	( 残 )6.0		(内) 10YR 4/1 褐灰色 (内) 10YR 4/1 褐灰色 (内) 10YR 4/1 褐灰色	白( 雜細な 白・褐色の 粒を含む )	5%	反転復原				
24	64	2-1-II IV・V・VI	灰色砂質土	黑色土器	桿		( 残 )1.2		底径 (8.0) (内) SYR 3/0 オリーブ黒色 (内) 10YR 7/4 に赤い黄褐色 (内) 7.5YR 6/6 棕色	白( 雜細な 白・透明色 の粒を含む )	10%	反転復原				
25	14	2-II	灰色砂質土	土師器	杯か桿		( 残 )1.7		底径 (8.0) (内) 7.5YR 6/2 灰黃褐色 (内) 10YR 6/2 从灰褐色 (内) 10YR 7/2 に赤い褐色	白( 雜細な 白灰色の粒 を含む )	10%	反転復原				

観 測 No.	実 測 No.	地区名	透構・部位	種類	岩種	法規				色調	重土	焼成	残 存 率	備考					
						( )は複数個													
						口徑	高さ	底	その他										
26	77	2-II	灰色砂質土	土脚部	(高台部)	(残)1.5	底 径 (7.2)			(内) 10YR7/3に似る黄褐色 (9) 10YR7/1灰白色 2.5Y3/1黒褐色 (断) 7.5YR7/4に似る褐色	やや粗 (2mm 以下の茶白 色の粒、微 細な白灰色 の粉を含む)	良	10%	反転復原					
27	23	2-II	灰色砂質土	土脚部	羽釜	(24.0)	(残) 5.5			(内) 7.5YR7/6褐色 (9) 7.5YR7/6褐色 (断) 7.5YR8/4淡褐色	やや粗 (2mm 以下の茶白 色の粒、微 細な粉を含 む)	良	5%	反転復原					
28	15	2-II	灰色砂質土	黑色土 腐 A類		(残)1.5	底 径 (6.6)			(内) 10YR6/1褐色 (9) 10YR6/4に似る黃褐色 (断) 10YR7/3に似る黃褐色	赤 (微 細 な白灰色の 粉を含む)	良	10%	反転復原					
29	16	2-II	灰色砂質土	黑色土 腐 A類		(残)1.3	底 径 (7.4)			(内) 10YR2/1黑色 (9) 10YR2/1に似る黃褐色 (断) 2.5Y7/1灰白色	赤 (微 細 な白灰色の 粉を含む)	良	10%	反転復原					
30	17	2-II	灰色砂質土	黑色土 腐 A類		(残)1.3	底 径 (8.0)			(内) SY3/1オリーブ黑色 (9) 7.5YR7/4に似る褐色 (断) 2.5Y7/2灰褐色	赤 (微 細 な白灰色の 粉を含む)	良	10%	反転復原					
31	19	2-II	灰色砂質土	黑色土 腐 A類		(16.0)	(残)2.6			(内) 2.5Y2/1黑色 (9) SY3/1オリーブ黑色 10YR7/2に似る黃褐色 (断) 10YR7/2に似る黃褐色	赤 (微 細 な白灰色の 粉を含む)	良	5%	反転復原					
32	20	2-II	灰色砂質土	黑色土 腐 A類		(16.0)	(残)4.0			(内) SY3/1オリーブ黑色 (9) SY3/1オリーブ黑色 2.5Y7/2灰褐色 (断) SY3/1オリーブ黑色 2.5Y7/2灰褐色	赤 (2mm 以下の灰白 色の粒、微 細な灰黑色 の粉を含む)	良	10%	反転復原					
33	21	2-II	灰色砂質土	黑色土 高台 器?		(残)1.6	底 径 (11.0)			(内) 7.5YR7/4に似る褐色 (9) 5Y5/1灰色 (断) 2.5Y8/3淡褐色	やや粗 (1mm 以下の白茶 色の粒を含 む)	良	10%	反転復原					
34	65	2-II	灰色砂質土	黑色土 腐 A類	(高台部)	(残)2.1	底 径 (14.0)			(内) 2.5Y7/1灰褐色 (9) SY3/1オリーブ黑色 (断) 2.5Y8/2灰褐色	赤 (微 細 な白・灰・透 明色の粉を 含む)	良	10%	反転復原					
35	66	2-II	灰色砂質土	黑色土 腐 B類		(残)1.5	底 径 (9.0)			(内) SY2/1黑色 SY3/2黑色 (断) SY2/1黑色	赤 (2mm 以下の白 い粒 1ヶ、 微細な白・ 透明色・光 る粒を含む)	良	10%	反転復原					
36	67	2-II	灰色砂質土	黑色土 腐 A類		(残)1.7	底 径 (8.4)			(内) 10YR6/6明黄褐色 SY3/1オリーブ黑色 (9) 2.5Y7/2灰白色 2.5Y4/1墨褐色 (断) 2.5Y8/2灰白色	赤 (2mm 以下の灰色 の粒 1ヶ、 微細な灰 色・光る 粒を含む)	良	10%	反転復原					
37	68	2-II	灰色砂質土	黑色土 腐 A類		(残)3.2		羽釜最大径 (3.0, 0)		(内) SY3/2オリーブ黑色 SY3/2オリーブ黑色 (断) SY3/2オリーブ黑色	赤 (微 細 な灰・灰 色・死 亡の粒を 含む)	良	5%	反転復原					
38	78	2-II	灰色砂質土	黑色土 腐 A類		(残)1.3	底 径 (8.4)			(内) 10Y3/1オリーブ黑色 10YR7/4に似る黃褐色 (断) 2.5Y8/2灰白色	赤 (2mm 以下の白 色の粒、 微細な 黄褐色 の粉を含む)	良	5%	反転復原					
39	79	2-II	灰色砂質土	黑色土 腐 A類		(残)2.3	底 径 (7.2)			(内) 7.5Y2/1黑色 (9) 10YR6/6明黄褐色 (断) 10YR6/6明黄褐色	赤 (微 細 な白灰色 の粉を含 む)	良	5%	反転復原					
40	93	2-II	灰色砂質土	黑色土 腐 B類		(19.0)	(残)1.0			(内) 2.5Y4/2暗灰褐色 2.5Y4/1灰褐色 (断) 10YR6/4に似る黃褐色	赤 (微 細 な白灰色 の粉を含 む)	良	0.1	反転復原					
41	80	2-II	灰色砂質土	瓦層		(残)1.9	底 径 (6.0)			(内) SY7/1灰白色 2.5Y7/6明黄褐色 (断) SY8/2灰白色	赤 (2mm 以下の灰色 の粒、微 細な灰白 色の粉を含 む)	良	5%	反転復原					

報 No.	実測 No.	地区名	温網・層位	種類	基種	法基 ( )は厘米値			色調	鉄土	錆成 率	残存 率	備考
						口桂	高 底	高台桂 ・その他					
						(残)1.1	(残)1.2	(残)1.3					
42	94	2-II	灰色砂質土	瓦器	桜				(内) 7.5Y3/1 オリーブ黒色 (外) 7.5Y2/1 黒色 (附) 5Y8/1 灰白色	赤( 錆細な 白い粒を含む)	0.2		
43	18	2-III	灰色砂質土 B類	黑色土器	桜	(15.8)	(残)2.4		(内) 5Y2/1 黑色 (外) 5Y2/1 黑色 (附) 2.5Y5/2 帽灰黑色	赤( 錆細な 灰黑色の粒を 含む)	5%	反転復原	
44	108	2-IV	石器A	石器			(残)		最大長 4.6 最大幅 2.1 厚み 0.55 (附)				
45	111	2-IV	石器B	石器			(残)		最大長 2.1 最大幅 1.4 厚み 0.22 (附)				
46	76	2-IV	灰色砂質土	土器器	(高台部)	(残)1.0	底 桂 6.4		(内) 10YR6/3 に赤い黄相色 (外) 10YR6/4 に赤い黄相色 (附) 7.5YR7/6 棕色	やや粗目( 1 mm 以下の 白灰色の粒を 含む)	10%	反転復原	
47	10	2-IV	灰色砂質土	陶器器	桜( 高 台 部)	(残)1.2	(底部) 5.6		(内) N6/ 灰色 (外) N6/ 灰色 (附)	やや粗( 1 mm 以下の 白灰色の粒を 含む)		反転復原	
48	11	2-IV	灰色砂質土	陶器器	桜( 高 台 部)	(残)1.9	(底部) 10.9		(内) N7/ 灰白色 (外) N6/ 灰色 (附)	中中密 良好		反転復原	
49	13	2-IV	灰色砂質土	陶器器	赤	16.6	(残)1.7		(内) N6/ 灰色 (外) N6/ 灰色 (附)	赤( 1 mm の 長石、炭化 物含む)		反転復原	
50	34	2-IV	灰色砂質土	陶器器	赤( つ ま み)		(残)1.3	つまみ (2.3)	(内) NS/ 灰色 (外) NS/ 灰色 (附) NS/ 灰色	赤( 錆細な 白い粒を 含む)	5%	反転復原	
51	35	2-IV	灰色砂質土	陶器器	桜( 高 台 部)	(残)1.0	底 桂 10.0		(内) 2.5Y7/1 灰白色 (外) 2.5Y7/1 灰白色 (附) 7.5YR6/4 に赤い相色	赤( 3 mm の 赤茶色の石 ) ケ、白い鐵 細な粒を含 む)	10%	反転復原	
52	36	2-IV	灰色砂質土	陶器器	赤	(28.0)	(残)2.8		(内) N6/ 灰色 (外) NS/ 灰色 (附) N7/ 灰白色	赤( 錆細な 白灰色の粒 を含む)	5%	反転復原	
53	37	2-IV	灰色砂質土	陶器器	赤	(30.0)	(残)4.1		(内) 5.8R7/6 深灰色 (外) N7/ 灰白色 (附) 5R7/1 明赤灰色	赤( 1 mm 以 下の白い粒 を含む)	5%	反転復原	
54	5	2-IV	灰色砂質土 A類	黑色土器 A類	(高台部)	(残)2.6	( 高 台 部) 10.2		(内) 2.5Y7/2 黄灰色 (外) N2/ 黑色 (附)	中中粗( 2 mm 以下の長石 含む)	良好	内部器底 部に 黒 の付着	反転復原
55	88	2-IV	灰色砂質土	黑色土器 A類	桜		(残)1.3	底 桂 (9.0)	(内) 2.5Y3/1 黑褐色 (外) 7.5YR7/6 棕色 (附) 10YR8/4 浅黃褐色	赤( 錆細な 白い粒を 含む)	10%	反転復原	
56	92	2-IV	灰色砂質土	土器器	小皿	(8.8)	(残)1.7		(内) 10YR6/4 に赤い黄相色 (外) 10YR6/3 に赤い黄相色 (附) 7.5Y5/4 に赤い褐色	赤( 1 mm 以 下の白灰 色の粒を 含む)	0.8		
57	89	2-IV	灰色砂質土	土器器	小皿	(9.2)	(残)1.8		(内) 10YR6/3 浅黄褐色 (外) 10YR6/3 浅黃褐色 (附) 7.5YR5/6 明褐色	中中粗( 1 mm 以下の白灰 色の粒を 含む)	0.2	反転復原	
58	90	2-IV	灰色砂質土	瓦器	桜	(18.0)	(残)4.5		(内) N6/ 灰色 (外) N6/ 灰色 (附) 5Y8/1 灰白色	赤( 錆細な 白・茶色の 粒を含む、2 mm 以下の灰 色の粒 1 ケ )	0.2	反転復原	
59	91	2-IV	灰色砂質土	瓦器	桜	(18.0)	(残)4.1		(内) N7/ 灰白色 (外) 2.5Y8/1 灰白色 (附) 2.5Y6/3 に赤い黄相色	赤( 錆細な 白茶色の粒 を含む)	0.1	反転復原	
60	45	2-V	灰色砂質土	土器器	桜		(残)1.2	底 桂 (8.0)	(内) 5Y8/2 棕色 (外) 5Y5/6 明褐色 (附) 5Y8/2 棕色	赤( 錆細な 白褐色の粒 を含む)	10%	反転復原	

観 No.	実 No.	測 地区名	透 地 構・層位	種 類	透 種	法 規				色 調	重 土	焼 成	残 存 率	備 考					
						( )は複数個													
						口 徑	高 さ	底 部	その 他										
61	46	Z-V	灰色砂質土	土師器	陶	(残)2.9	底 径 (7.0)			(内) 10YR7/4 に似る黄褐色 (外) 2.5Y7/2 灰黄色 (外) 10YR7/4 に似る黄褐色	赤(微細な 基底色の粒 を含む)	良	5%	反転復原					
62	69	Z-V	灰色砂質土	土師器	陶	(13.0)	(残)3.5			(内) 10YR7/3 に似る黄褐色 (外) 2.5Y7/4 に似る褐色 (外) 5YR7/6 棕褐色	赤(2mmの白 い粒、1 mm以下の白 基色の粒を 含む)	良	10%	反転復原					
63	87	Z-V	灰色砂質土	土師器	(高台部)	(残)2.9	底 径 (14.0)			(内) 10YR7/4 に似る黄褐色 (外) 2.5Y5/2 灰褐色 (外) 7.5YR6/6 棕褐色 (外) 2.5Y7/3 浅褐色	赤(半粗 粒白色 を含む)	良	20%	反転復原					
64	7	Z-V	灰色砂質土	縦隔壁陶	陶	11.7	4.2	(底 部)	6.6	(外) 10YR7/5 緑褐色 (外) 10BG6/1 青灰色 (外)	稍良	良好		反転復原 口 縫 外 反、Ⅱ類 貼付計高 台、縫高 台(1/2), AⅡ類? →Ⅱ類? (C後)					
65	82	Z-V	灰色砂質土	土師器	陶	(18.6)	(残)2.0			(外) SY6/1 灰色 (外) SY7/1 灰褐色 (外) SY6/1 灰色	赤(微細な 白い粒を含 む)	良	10%	反転復原					
66	12	Z-V	灰色砂質土	土師器	移作	12.8	(残)2.8			(外) NG/1 灰色 (外) NG/1 灰色 (外)	赤(半 ~2mmの長 石混じる)	良好							
67	6	Z-V	灰色砂質土	黑色土器(高台部)	A類	(残)2.7	(器 部)	(13.6)		(外) 2.5Y7/2 灰黄色 (外) SY6/1 灰色 (外)	赤(2mm以下 の長石、黑 色石を含む)	良好		反転復原					
68	8	Z-V	灰色砂質土	黑色土器(高台部)	A類	(残)1.5	(底部)	8.0		(外) 2.5Y5/2 灰褐色 (外) SYR6/3 に似る褐色 (外)	赤(半 以下長 石混じる)	良好		反転復原					
69	9	Z-V	灰色砂質土	黑色土器(高台部)	A類	(残)1.5	(底部)	9.6		(外) 2.5Y2/1 黑 (外) 7.5YR7/3 に似る褐色 (外)	赤(半 以下砂 粒を含む)	良好		内 黒 反転復原					
70	28	Z-V	灰色砂質土	黑色土器	陶	(16.0)	(残)3.9			(外) 10YR2/1 黑色 (外) 10YR3/1 黑褐色 7.5YR7/6 棕褐色 (外) 10YR8/4 浅褐色	赤(微 透明 の粒を含む)	良	10%	反転復原					
71	29	Z-V	灰色砂質土	黑色土器	A類	(13.0)	(残)3.0			(外) 2.5Y2/1 黑褐色 (外) 2.5Y5/2 灰褐色 2.5Y7/2 灰黄色 (外) 10YR3/3 灰褐色	赤(微 細な 白い粒を含 む)	良	5%	反転復原					
72	47	Z-V	灰色砂質土	黑色土器	A類	(残)1.4	底 径 (8.0)			(外) 10YR4/1 灰褐色 (外) 7.5YR6/6 棕褐色 (外) 2.5Y7/4 浅褐色	赤	良	5%	反転復原					
73	48	Z-V	灰色砂質土	黑色土器	A類	(残)1.9	底 径 (8.0)			(外) 5Y3/1 オリーブ色 (外) 5Y4/1 灰色 10YR7/3 に似る黄褐色 (外) 10YR7/3 に似る黄褐色	赤	良	10%	反転復原					
74	49	Z-V	灰色砂質土	黑色土器	B類(?)	(残)1.3	底 径 (10.0)			(外) 10YR2/1 黑色 (外) 10YR3/2 黑褐色 7.5YR6/6 棕褐色	赤(微 細な 白い粒を含 む)	良	5%	反転復原					
75	50	Z-V	灰色砂質土	黑色土器	(高台部)	(残)1.6	底 径 (12.0)			(外) 2.5Y5/1 黄褐色 (外) 10YR7/3 に似る褐色 7.5YR8/4 に似る褐色	赤(微 細な 基底色の粒 を含む)	良	5%	反転復原					
76	51	Z-V	灰色砂質土	黑色土器	A類	(残)1.5	底 径 (7.0)			(外) 5Y2/1 黑色 (外) 10YR7/2 に似る黄褐色 10YR8/2 灰白色	赤(2mm以下 の灰色の粒、 微細な灰白 色の粒を含 む)	良	5%	反転復原					
77	52	Z-V	灰色砂質土	黑色土器	A類	(残)1.4	底 径 (8.0)			(外) 2.5Y3/1 黑褐色 (外) 2.5Y7/3 浅褐色 7.5YR7/6 棕褐色	赤(微 細な 白・金色の 粒を含む)	良	5%	反転復原					

報 No	実 測 No.	地区名	温 度 ・ 相 位	種 類	基 礪	法 基 ( ) は原元値			色 調	耐 土	既 成	残 存 率	備 考
						口挂	高 度	底 ・ 高台挂					
						(15.6)	(残)33.7						
78	55	2-V	灰色砂質土	黑色土器 A類	桙				(内) 2.5Y3/1 黒褐色 (外) 2.5Y3/1 黒褐色 10YR6/3 に似い黄褐色 (底) 10YR7/2 に似い黄褐色	(未(難)な 灰・透明の 粒を含む)	良	5%	反転復原
79	70	2-V	灰色砂質土	黑色土器 A類	桙	(14.0)	(残)2.9		(外) 2.5Y7/2 灰黃色 2.5Y5/1 黄褐色 (内) 2.5Y7/2 灰黃色 2.5Y5/1 黑灰色 (底) 2.5Y7/2 灰黃色 2.5Y5/1 黄褐色	(未(難)な 白灰色の粒 を含む)	良	5%	反転復原
80	74	2-V	灰色砂質土	黑色土器 A類	桙	(16.4)	(残)2.8		(外) 5Y3/1 オリーブ黒色 (内) 2.5Y5/2 暗褐色黃色 2.5Y8/4 淡黃色 (底) 7.5Y5/4 C.5.4.褐色	(未(難)な 灰・光る 粒を含む)	良	5%	反転復原
81	81	2-V	灰色砂質土	黑色土器 A類	桙		(残)1.2 (8.0)		(外) 5Y3/1 オリーブ黒色 (内) 10YR7/6 明黃褐色 (底) 10YR7/4 に似い黄褐色	(未(難)な 光る粒を含む)	良	5%	反転復原
82	83	2-V	灰色砂質土	黑色土器 A類	桙	(14.4)	(残)3.7	底、柱 (9.2)	(外) 7.5Y3/1 オリーブ黒色 (内) 5YR6/6 褐色 10YR7/4 に似い黄褐色 7.5Y3/1 オリーブ黒色 (底) 2.5Y7/3 淡黃色	(未(難)な 白・灰・光 る粒を含む)	良	15%	反転復原
83	96	2-V	灰色砂質土	黑色土器 A類	桙	(14.0)	(残)3.4		(外) 2.5Y4/1 黄褐色 (内) 2.5Y3/1 黒褐色 2.5Y7/4 淡黃色 (底) 2.5Y4/1 黄褐色	(未(難)な 白灰色の粒 を含む)	良	0.05	反転復原
84	98	2-V	灰色砂質土	黑色土器 A類	桙	(15.8)	(残)2.7		(外) 2.5Y4/1 黄褐色 (内) 5Y4/4 黃褐色 2.5Y7/3 淡黃色 (底) 2.5Y5/2 暗黃褐色	(未(難)な 白色の粒を 含む)	良	0.05	反転復原
85	100	2-V	灰色砂質土	黑色土器 A類	桙	(16.0)	(残)4.3		(外) 2.5Y4/1 黄褐色 (内) 10YR4/1 褐灰色 10YR6/3 に似い黄褐色 (底) 10YR7/2 に似い黄褐色	(未(難)な 白・光る 粒を含む)	良	0.1	反転復原
86	54	2-V	灰色砂質土	黑色土器 B類	桙	(12.0)	(残)2.1		(外) 2.5Y3/1 黑褐色 (内) 2.5Y3/1 黑褐色 2.5Y6/2 淡黃色	(未(難)な 灰褐色の 粒を含む)	良	5%	反転復原
87	95	2-V	灰色砂質土	黑色土器 B類	桙	(14.0)	(残)3.2		(外) 2.5Y5/1 黄褐色 (内) 2.5Y5/1 黑褐色 (底) 2.5Y6/4 に似い黃褐色	(1mm以下 の灰・光 る粒を含む)	良	0.05	反転復原
88	53	2-V	灰色砂質土	土器器 (口縁部)	桙	(12.4)	(残)3.2		(内) 10YR6/3 に似い黃褐色 (外) 7.5YR6/4 に似い褐色 7.5YR7/4 に似い褐色	(未(難)な 白灰色の粒 を含む)	良	5%	反転復原
89	59	2-V	灰色砂質土	土器器 甕	甕	(32.0)	(残)4.3		(外) 7.5YR7/4 に似い褐色 (内) 10YR7/4 に似い黄褐色 10YR6/2 暗黃褐色 (底) 7.5YR7/4 に似い褐色	(3mm以下 の白灰色の 粒を含む) (難)な 白・灰・光 る粒を含む)	良	5%	反転復原
90	60	2-V	灰色砂質土	須恵器 羽茎	羽茎		(残)2.0	羽部最大 26.0	(外) 2.5Y5/1 黄褐色 (内) 2.5Y5/1 黄褐色 2.5Y7/1 灰白色	(1mm以下 の灰・白・色 の粒を含む)	不良	5%	反転復原
91	86	2-V	灰色砂質土	黑色土器 A類	桙	(30.0)	(残)9.0		(外) 2.5Y5/1 黄褐色 (内) 10YR6/2 灰黃褐色 2.5Y3/2 黑褐色 (底) 2.5Y2/1 黑色 2.5Y8/1 灰白色	(未(難)な 白・灰・光 る粒を含む)	良	5%	反転復原
92	99	2-V	灰色砂質土	黑色土器 A類	桙	(14.0)	(残)4.6		(内) 5Y3/1 オリーブ黒色 (外) 10YR7/4 に似い黄褐色 10YR6/1 褐灰色 (底) 10YR6/2 灰白色	(未(難)な 白色・光 る粒を含む)	良	0.05	反転復原

観 測 No.	実 測 No.	地区名	透構・岩位	種類	岩種	法規 ( )は複数個				色調	粒度	焼成	残 存 率	備考					
						口径	高さ	底	その他										
							(4.0)	(残)15.0											
93	57	Z-V	灰色砂質土	黒色土 A類?		(4.0)	(残)15.0			(内) 2.5Y3/1 黒褐色 10YR6/6 明黄褐色 (9) 10YR6/3 に赤い黃褐色 (断) 10YR8/2 灰白色	やや粗(3mm の茶色の粒 1ヶ、1mm以 下の白い粒、 微細な白・ 茶・灰の 粒を含む)	良	5%	反転復原					
94	58	Z-V	灰色砂質土	黒色土 A類		(残)3.2		26.0		(内) 2.5Y3/1 黑褐色 10YR6/6 明黄褐色 (9) 10YR6/3 に赤い黃褐色 (断) 10YR8/2 灰白色	やや粗(微 細な灰白色 の粒を含む)	良	5%	反転復原					
95	85	Z-V	灰色砂質土	黒色土 A類?		(25.0)	(残)10.4			(内) 7.5YR5/6 黄褐色 10YR4/1 褐灰色 (9) 10YR4/1 褐灰色 7.5YR7/3 に赤い黃褐色 (断) N2/ 黒色 10YR8/1 灰白色	微細な 白灰色の粒 を含む)	良	15%	反転復原					
96	56	Z-V	灰色砂質土	黒色土 A類	羽茎?				幅 大 長 6.0 最大幅 7.8	(9) 10YR4/1 褐灰色 10YR8/1 灰白色 (9) 7.5YR5/1 褐灰色 10YR7/2 に赤い黃褐色 (断) 7.5YR5/3 に赤い黃褐色	微細な 白灰色の粒 を含む)	良	5%						
97	71	Z-V	灰色砂質土	黒色土 A類	羽茎	(残)2.3		羽部最大径 (28.0)		(内) 10YR6/6 明黄褐色 2.5Y4/1 褐灰色 (9) 10YR7/4 に赤い黃褐色 2.5Y4/1 褐灰色 (断) 7.5YR3/3 浅黄色	3mm 以下 の灰褐色の粒、 微細な灰褐色、 光る粒を含 む)	良	5%	反転復原					
98	84	Z-V	灰色砂質土	黒色土 A類?	羽茎	(28.0)	(残)4.7	羽部最大径 (31.0)		(内) 2.5Y4/1 黄褐色 (9) 10YR5/2 灰黃褐色 10YR7/2 に赤い黃褐色 (断) 10YR6/7 褐灰色	やや粗(3mm 以下の白所 在の白所 色の粒、微 細な白灰色 の粒を含む)	良	10%	反転復原					
99	101	Z-V	灰色砂質土	黒色土 A類?	羽茎	(26.0)	(残)6.0			(内) 10YR4/1 褐灰色 (9) 10YR4/1 褐灰色 2.5Y8/2 灰白色 (断) 2.5Y7/4 浅黄色	1mm 以下 の白灰色 の粒を含む)	良	0.05	反転復原					
100	72	Z-V	灰色砂質土	瓦砾	小組	(7.0)	(残)1.5			(内) 2.5Y9/2 灰白色 2.5Y7/3 浅黄色 (9) 5YB/1 灰白色 (断) 10Y4/1 灰白色	微細な 白灰色の粒 を含む)	良	30%	反転復原					
101	73	Z-V	灰色砂質土	瓦砾	細	(14.0)	(残)3.5			(内) 2.5Y7/4 浅黄色 (9) 2.5Y6/4 に赤い黃褐色 2.5Y6/6 に赤い黃褐色 (断) 2.5Y6/4 に赤い黃褐色	微細な 白灰色の粒 を含む)	良	5%	反転復原					
102	104	Z-V	灰色砂質土	土礫層	把手	(残)		幅 大 長 5.8 最大幅 4.15		(9) 10YR7/4 に赤い黃褐色 (9) 10YR5/3 に赤い黃褐色	4mm 以下 の白褐色の 小石・砂粒 を含む)	良	残存把手 のみ						
103	105	Z-V	灰色砂質土	土礫層	把手	(残)		幅 大 長 4.83 最大幅 4.3		(9) 10YR7/4 に赤い黃褐色 (9) 10YR7/4 に赤い黃褐色 (断) 10YR4/4 褐色	微細な 白褐色の 砂粒少し含む)	良	残存把手 のみ						
104	22	Z	灰色砂質土	硫酸鉄岩	泥炭	(残)1.2	高 底 径 (12.0)			(9) 7.5Y9/2 灰褐色 (9) 10Y4/2 オリーブ灰 10YR6/2 灰褐色 (断) 7.5YR7/3 に赤い褐色	微細な 白灰色の 砂粒を含 む)	良	5%	反転復原 拓本あり					
105	24	Z-V かく及下	に赤い黄色 粘性砂質土	土礫層	羽茎	(24.0)	(残)4.5			(9) 2.5Y7/2 浅黄色 (9) 10YR7/1 灰白色 (断) 2.5Y4/1 黄褐色	3mm の白 い粒 1ヶ、 微細な白灰 色の砂粒を含 む)	良	5%	反転復原					
106	29	Z-N	に赤い黄色 砂質土	瓦砾	小組	(10.0)	1.0			(9) 7.5Y6/1 灰褐色 (9) 7.5Y5/1 灰褐色 (断) 2.5Y6/4 に赤い黄色	やや粗(微 細な白い粒 を含む)	良	30%	反転復原					

報 No.	実 No.	地区名	調査・部位	種類	基種	法基 ( )は削元値				色調	樹土	既成 残存 率	備考				
						口掛け	高さ	底 ・高台挂	その他								
107	26	2-N'	にぶい黄色 砂質土	黑色土器	柄	(15.0)	(残) 3.0			(内) 2.5Y4/1 黄灰色 10YR7/1 底白色 (外) 7.5Y4/1 灰色 7.5Y7/6 棕色 (削) 7.5Y7/4 にぶい褐色	赤(推測) 良 白色灰褐色の 粒を含む)	5%	既成復原				
108	61	2-II	にぶい黄色 砂質土	黑色土器	柄	(残) 2.4				(内) 10YR6/6 明黄褐色 2.5Y4/1 黄灰色 (外) 2.5Y4/1 黄灰色 5YR7/4 にぶい褐色 (削) 2.5YR7/2 底白色	赤(推測) 良 底白色の粒 を含む)	5%	既成復原				
109	75	2-V	にぶい黄色 砂質土	瓦器	柄	(残) 1.0	底 径 (4.4)			(外) 5Y6/1 灰色 (外) 5Y7/2 底白色 (削) 5Y7/1 底白色	赤(推測) 良 白色灰褐色の 粒を含む)	10%	既成復原				
110	106	2	にぶい黄相 色粘性砂質 土	黑色土器	把手	(残)				(外) NS/暗灰褐色 最大幅 4.8 (削) 7.5YR7/6 棕色 (削) 10YR7/4 にぶい黄褐色	赤(推測) 良 白色砂粒・ 鐵錆少(含 む)		残存把手 のみ				
111	102	2	にぶい黄相 色粘性砂質 土	玉縁の赤 瓦	(残)					最大長 6.0 (内) 10YR にぶい黄褐色 最大幅 6.4 (外) 2.5Y 灰褐色 最大厚 3.7 (削) 10YR にぶい黄褐色	赤(最大幅 2.良 mの白色砂 粒含む) 鐵錆 を含む)						
112	107	2-N+V M+VII	重頭溝張り	黑色土器	把手	(残)				最大長 7.1 (内) NS/暗灰褐色 (外) 10YR7/4 にぶい黄褐色 (削) 10YR8/3 浅黃褐色	赤(1mm以下 の白色砂粒・ 鐵錆少(含 む))		残存把手 のみ				

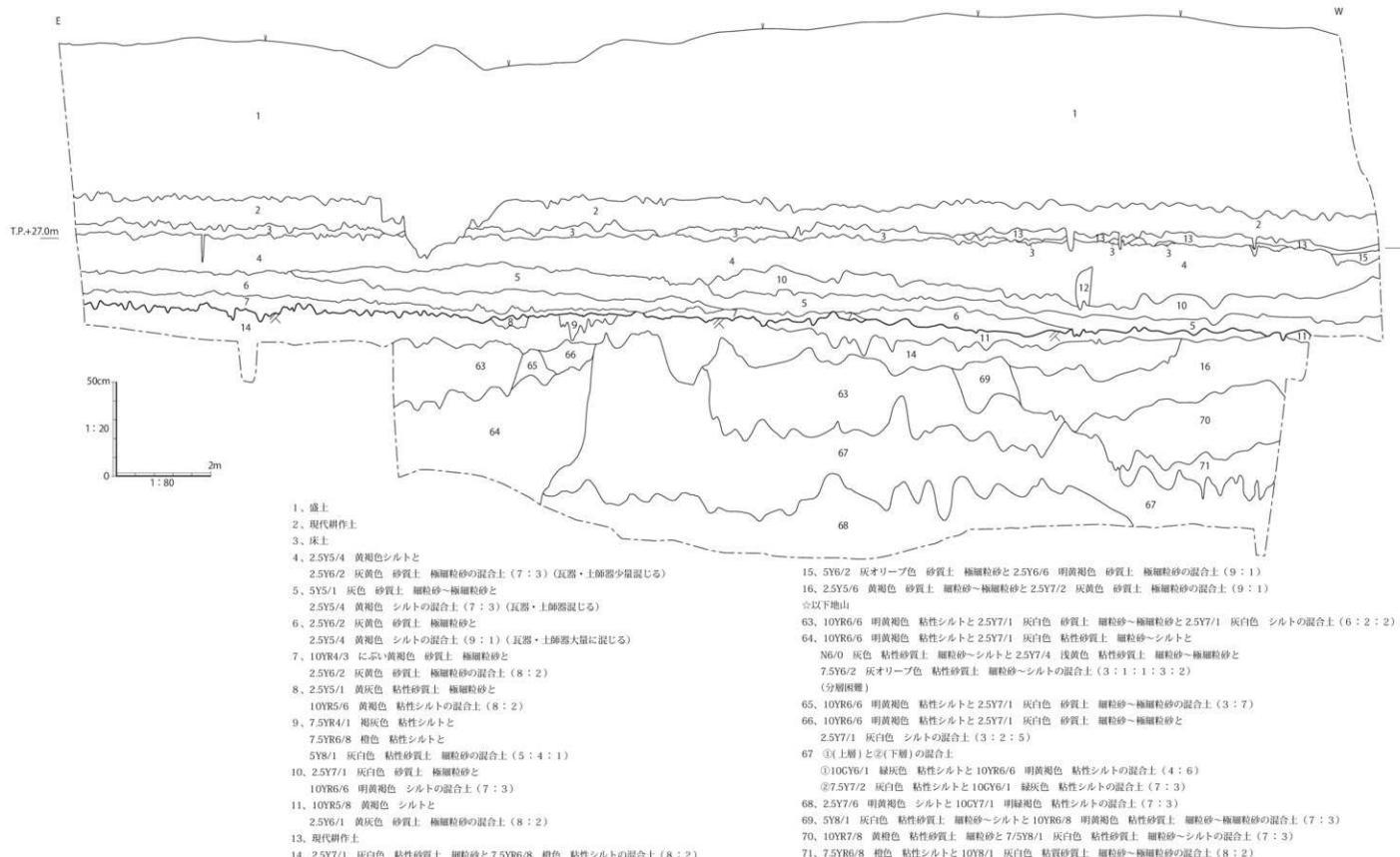


図18 2区南壁土層断面図

4

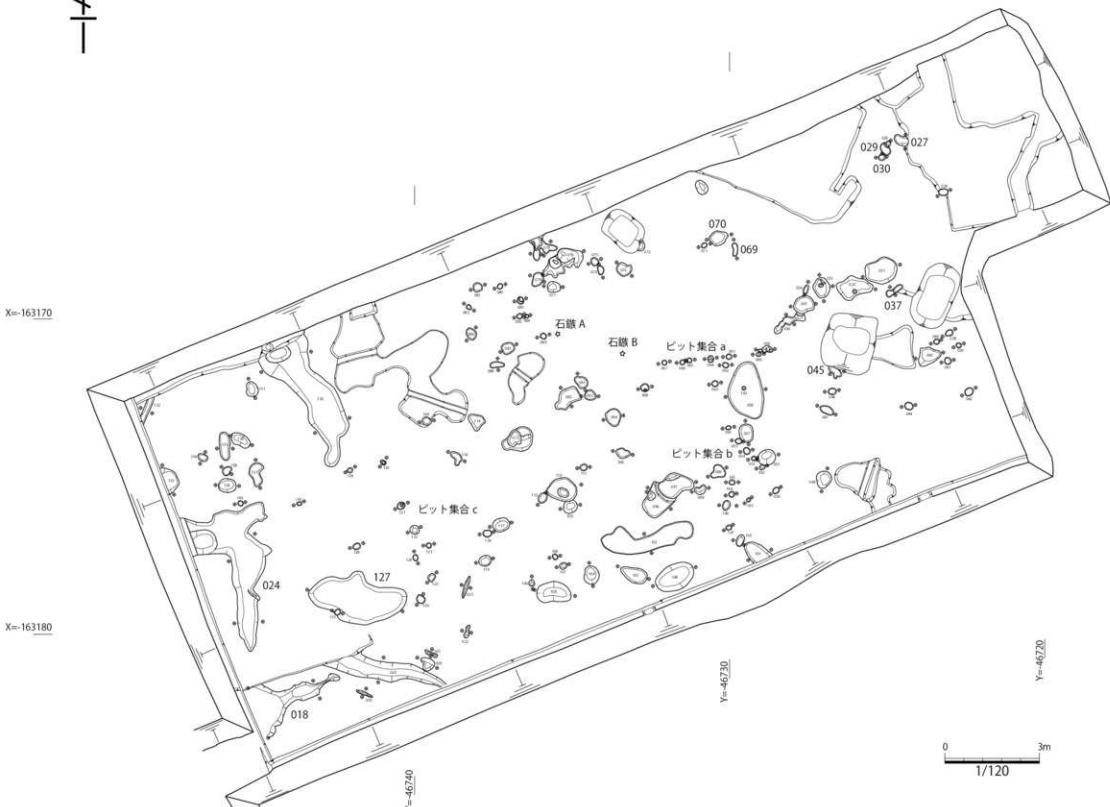


図19 2区全体図

# 図 版





原色図版二  
1区・2区土層断面

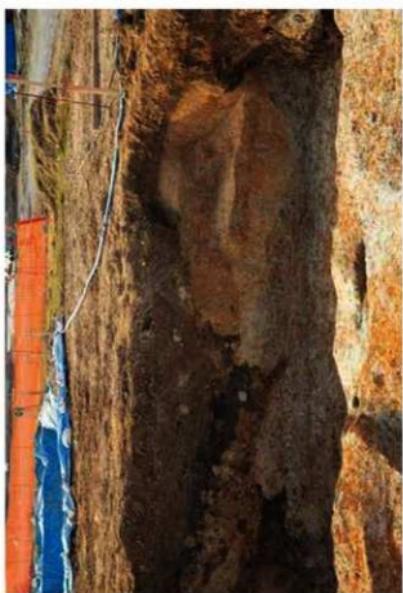


1区東壁土層断面（北西から）



2区南壁土層断面（北から）

原色図版三 三区から六区土層断面



3区南壁土層断面（北から）



4区東壁土層断面（西から）



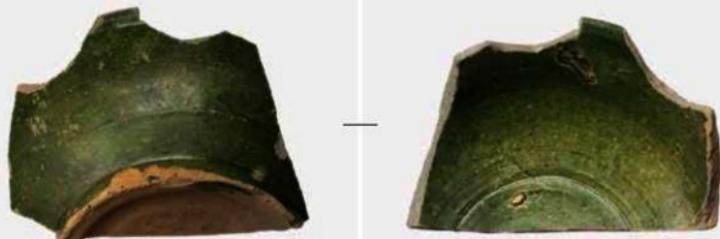
5区南壁土層断面（北西から）



6区東壁土層断面（北西から）



104



64



5





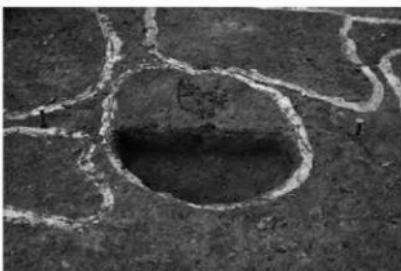
1区第2c層上面遺構出土状況（北から）



1区全景（北から）



154（南から）



156（南から）



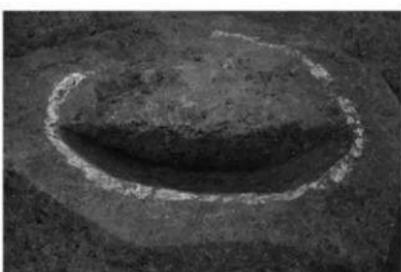
157（南から）



159（南から）



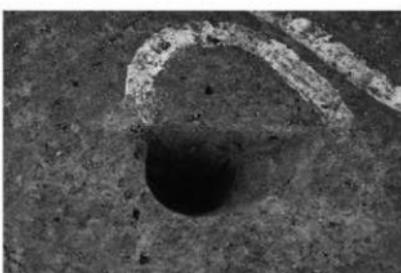
163（南から）



170（南から）

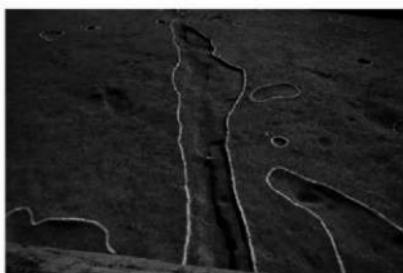


173（南東から）



190（南から）

図版二  
一区遺構断面その二・二区全景



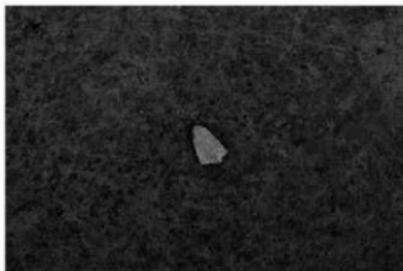
187（北から）



175（南から）



2区全景（西から）



石罐A出土状況（南から）



石罐B出土状況（南から）

図版四  
二区ピット集合



ピット集合a（北から）



ピット集合b（北から）



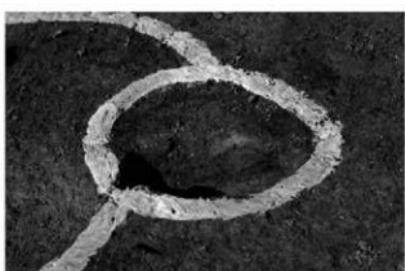
ピット集合c（北から）



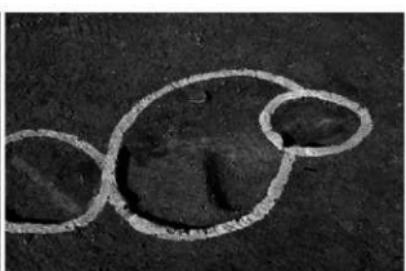
024（南から）



027（西から）



028（南東から）



029（南東から）



030（南から）



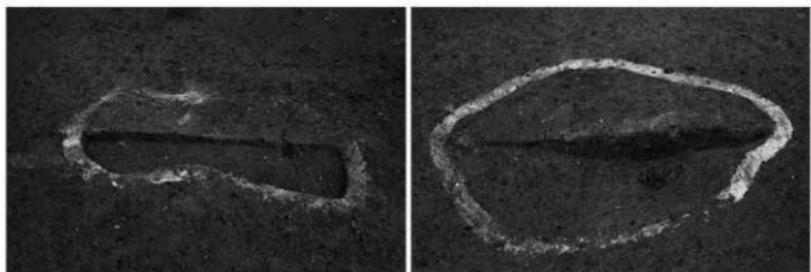
018（西から）



022（南から）

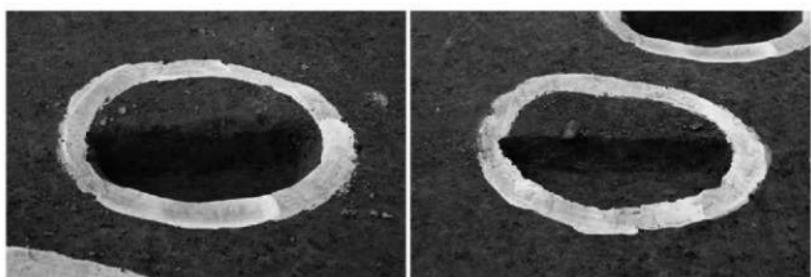


045（北から）



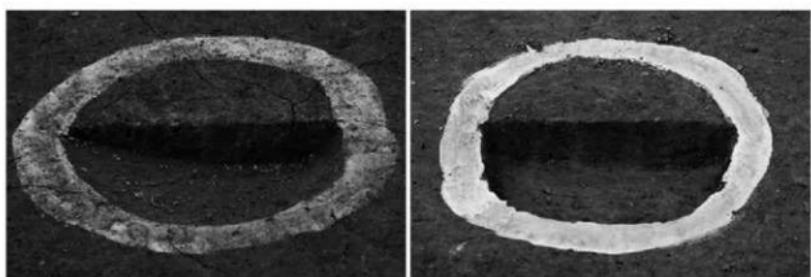
069 (西から)

070 (南から)



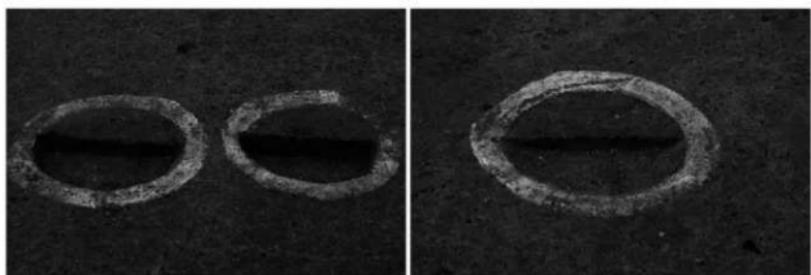
061 (南から)

062 (南から)



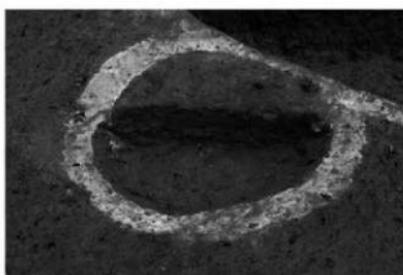
063 (南から)

064 (南から)

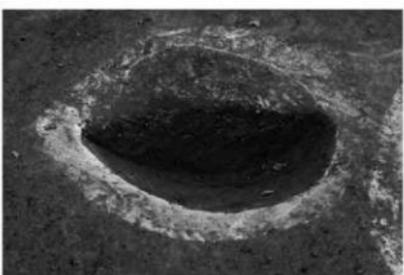


065・066 (南から)

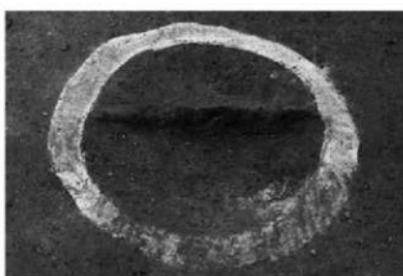
067 (南から)



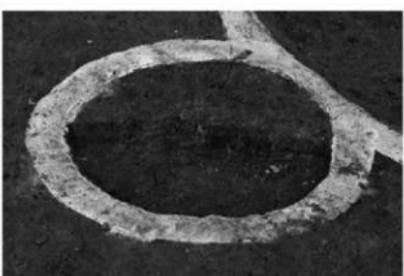
052（南から）



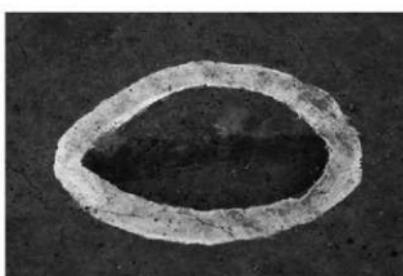
053（南から）



054（南から）



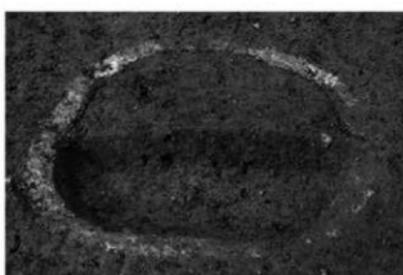
055（南から）



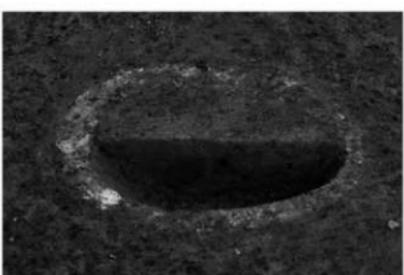
056（南から）



080（南から）



081（南から）



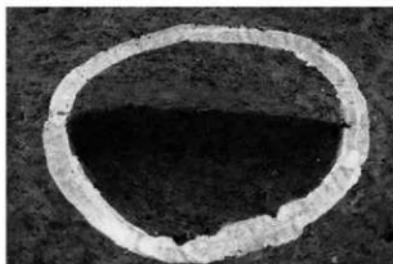
082（西から）



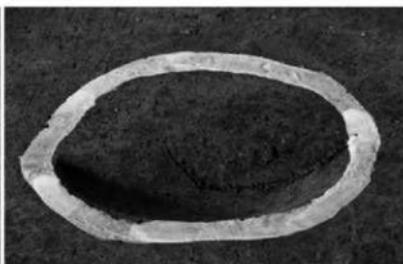
083（南から）



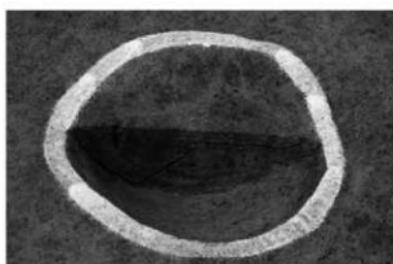
084（南から）



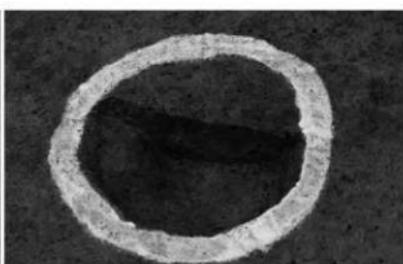
085（南から）



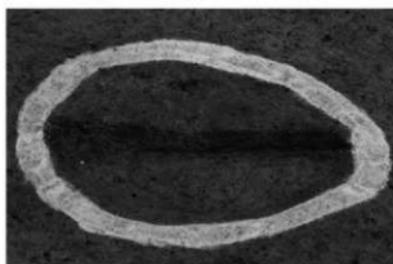
121（南から）



122（南から）



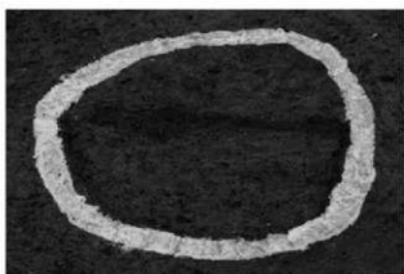
123（南から）



124（西から）



125（南東から）



126（南東から）



127（南東から）



128（南から）



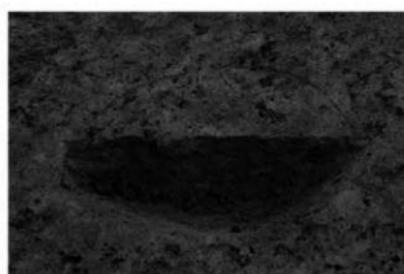
151（南から）



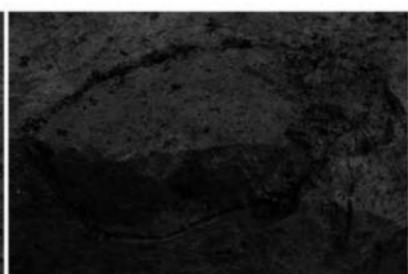
005（西から）



008（西から）



009（西から）



010（西から）

図版一〇 四区・五区・六区全景



4区全景（東から）



5区全景（北から）

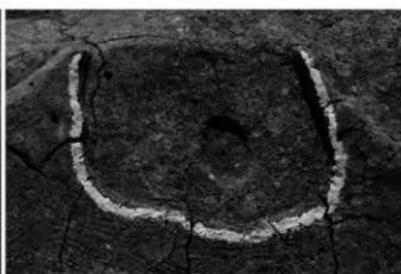


6区遺構全景（西から）

図版一  
五区・六区遺構断面



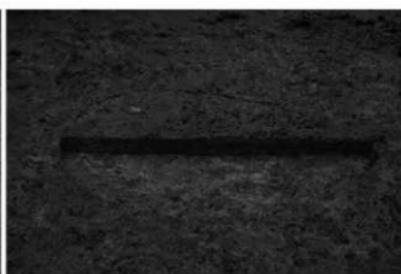
003（東から）



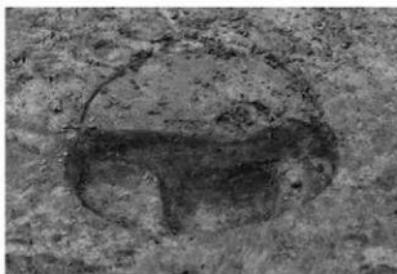
001（東から）



011（西から）



012（西から）

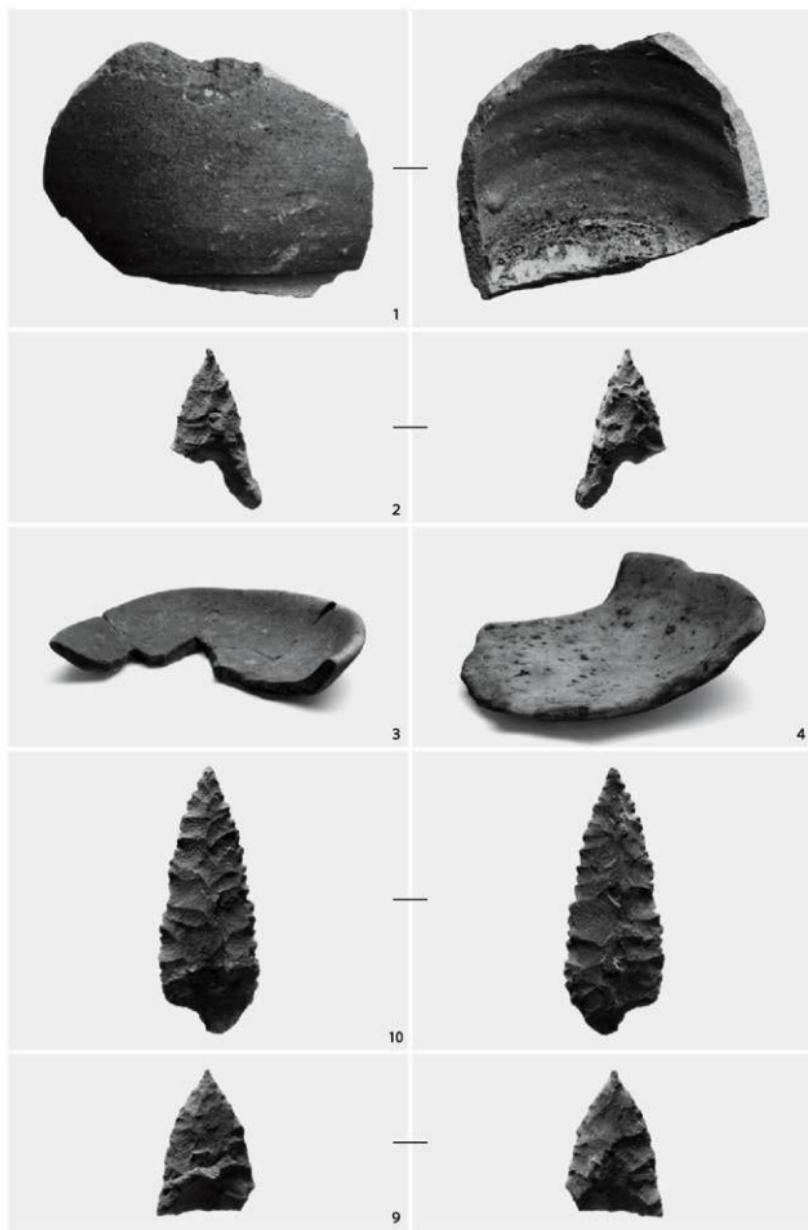


014（西から）



016（西から）

一一二  
一区・二区出土遺物



図版一  
一区出土遺物その二



14



26



11



12



13



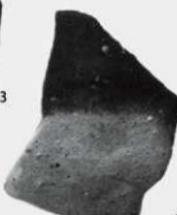
21



43



31



32



28



30



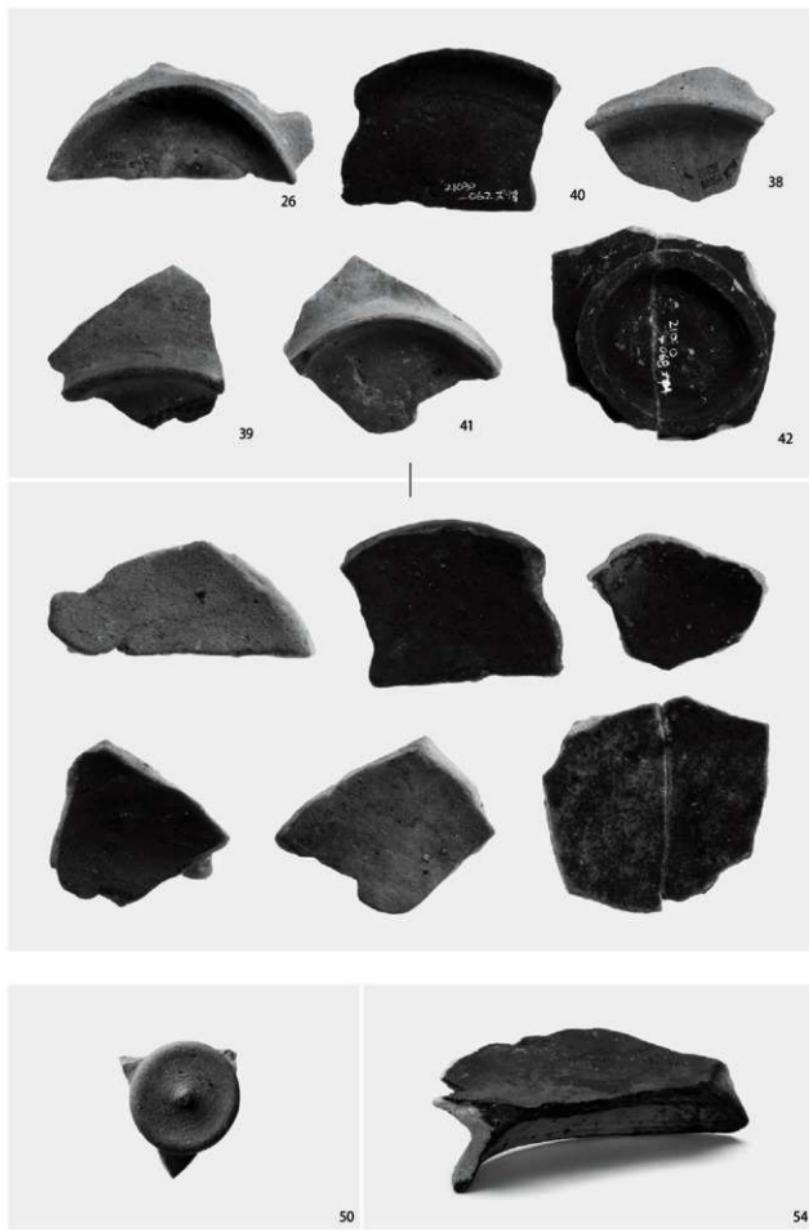
37



27



図版一四 一区出土遺物その三





55



46



56

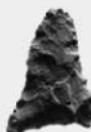
57



44



図版一六  
二区出土遺物その五



45



67



61



73



74



70



71

図版一七  
一区出土遺物その六



70



71



73



74



90



67

図版一八 一二区出土遺物その七



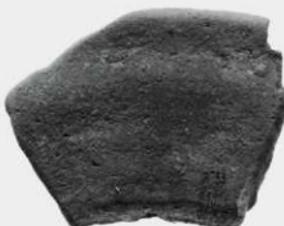
88



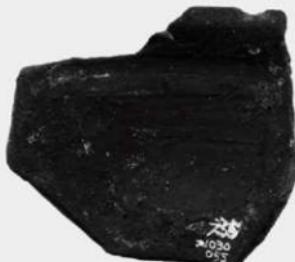
78



86



73  
2930  
059



72  
2930  
059



76



77



75



72

図版一九 一区出土遺物その八



96



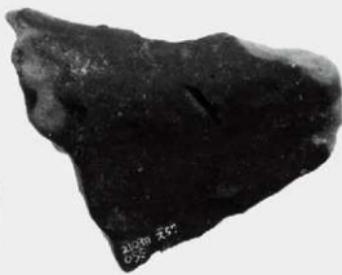
93



89



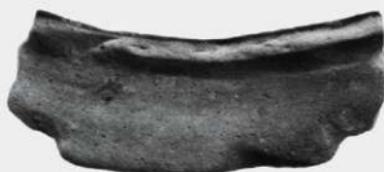
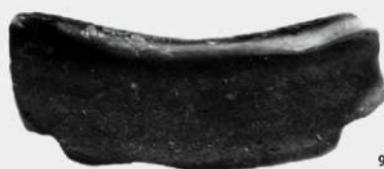
106  
1063



105  
1053



図版一〇  
一区出土遺物その九



95

図版二  
一区出土遺物その一〇



85



39



87



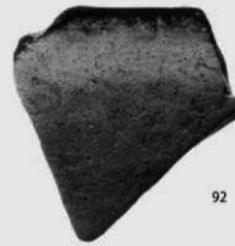
82



84



83



92

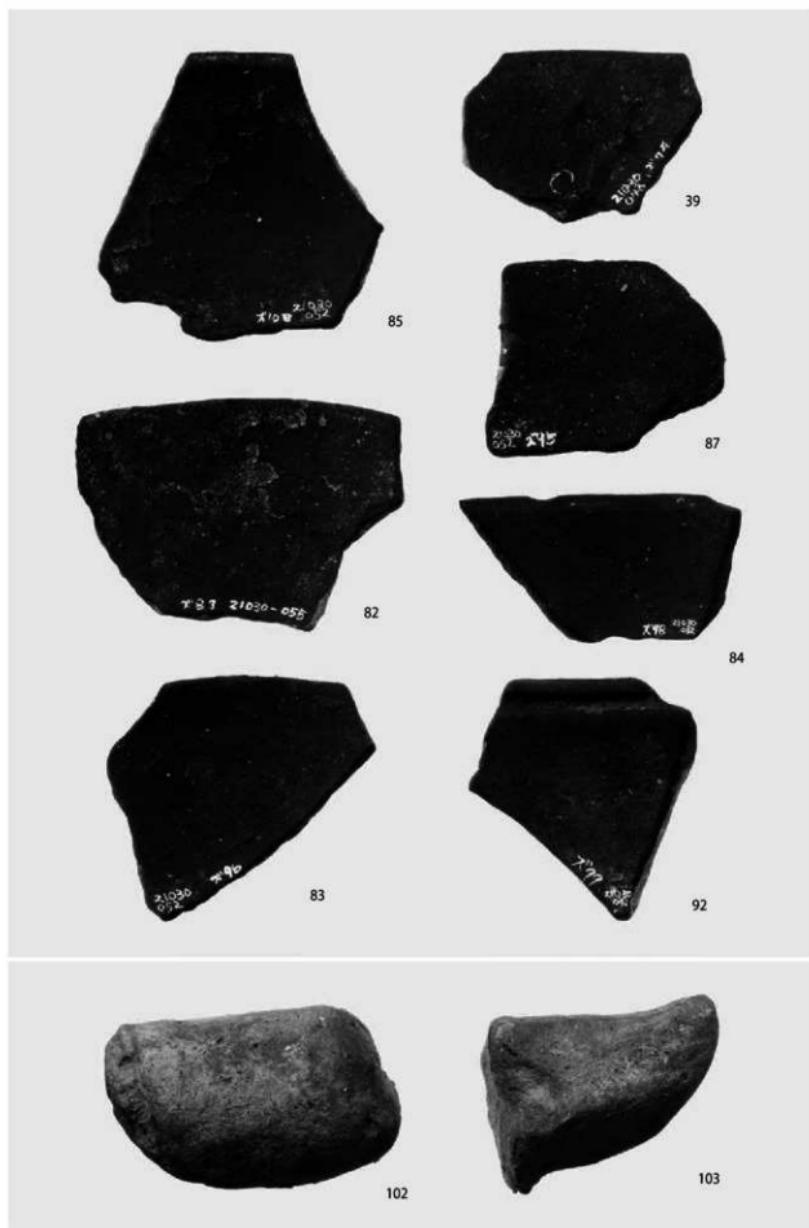


63



98

図版 一二一区出土遺物その一

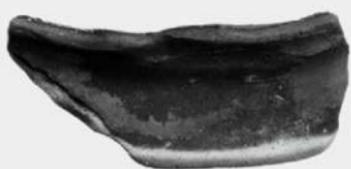




24



23



108



111



105



112



## 報告書抄録

大阪府埋蔵文化財調査報告2022-1

**宮園遺跡IV**

—大阪府宮堺宮園第3期高層住宅(建て替え)新築工事に伴う発掘調査—

発 行 大阪府教育委員会

〒540-8571 大阪市中央区大手前二丁目  
TEL 06-6941-0351(代表)

発行日 令和5年3月31日

印 刷 株式会社 近畿印刷センター

〒582-0001 柏原市本郷5丁目6番25号